

琉球大学

2020



Island wisdom,
for the world,
for the future.

CONTENTS

在学生の声	03	キャンパスライフ	65
		CAMPUS MAP	67
学長メッセージ	09	施設紹介	69
		海外留学・交流協定大学等	75
「〇〇してみた！」	63	就職サポート	76
		学生寮	77
		経済サポート	78
		取得可能な資格	79
		2019(平成31)年度入試統計	81
		入試関連情報	82

人文社会学部	11	医学部	37
国際法政学科	13	医学科	39
人間社会学科	14	保健学科	41
琉球アジア文化学科	15		
改組の概要	16		

国際地域創造学部	17	工学部	43
観光地域デザインプログラム	19	工学科	45
経営プログラム	20	機械工学コース	46
経済学プログラム	21	エネルギー環境工学コース	47
国際言語文化プログラム	22	電気システム工学コース	48
地域文化科学プログラム	23	電子情報通信コース	49
改組の概要	24	社会基盤デザインコース	50
		建築学コース	51
		知能情報コース	52

教育学部	25		
学校教育教員養成課程	27		

理学部	29	農学部	53
数理科学科	31	亜熱帯地域農学科	55
物質地球科学科	33	亜熱帯農林環境科学科	57
海洋自然科学科	35	地域農業工学科	59
		亜熱帯生物資源科学科	61

COCOAR を活用して 動画を見よう!

STEP1 スマホやタブレットに 無料の専用アプリ『COCOAR2』をインストール

STEP2 アプリを起動します

SCANNER

COCOAR2

Available on the App Store | Get it on Google play

マーカーをカメラで 認識すれば OK!



大好きな沖縄の為に出来ることを探して、
沖縄のリーディング産業である観光を学びに琉大へ。
ブルーミングプロジェクト、やっています。

観光産業科学部
観光科学科 4年

嘉数 晴花

那覇国際高校 出身



先輩からのメッセージを
動画でチェック!!



将来の夢は数学教師。
周りは数学のスペシャリストばかりなので
勝ち残るため切磋琢磨しています。

理学部
数理科学科 2年

伊波 統矢

石川高校 出身



化学にはまり、海の研究をしたくて琉大に。
琉大の魅力は生きていくための
様々な能力を育ててくれるところです。

理学部
海洋自然科学科 化学系 3年

龍山 智道

埼玉栄高等学校(埼玉) 出身



一度社会に出てからもう一度大学生に。
「一緒に夢を実現させよう」と
助けてくれる仲間ができました。

医学部
医学科 4年

今田 早香

聖母女学院高等学校(大阪) 出身



大学でやりたいことを見つけようと
新しい環境を求めて沖縄に。
やりたいこと、見つけました。

理学部
海洋自然科学科 化学系 4年

金子 陽香

大妻嵐山高等学校(埼玉) 出身



琉大の魅力は寛容さ。
やりたいという意思があれば
色々なことに挑戦させてもらえます。

法文学部
人間科学科 4年

楠田 大介

島原高等学校(長崎)出身



文系だったはずなのに、宇宙に魅了され
苦手な物理・数学を克服して琉大に。
琉大にはやりたい事をサポートしてくれる先生がいます。

理学部
物質地球科学科 物理系 3年

品川 玲央

紫野高等学校(京都)出身



臨床検査技師になるため、
血液や微生物など様々な知識を蓄えています。
琉大の魅力は自然が豊かなところ。
たまにクワガタを獲ったりします(笑)

医学部
保健学科 3年

與那城 孝龍

首里高校 出身



中学の吹奏楽部で始めたクラリネットが入試で武器に。
音楽科の入試は自分の得意な楽器で実技試験を
受けられるので特技が活かされます。

教育学部
学校教育教員養成課程
中学校教育コース
教科教育専攻
音楽教育専修 2年

知花 真優子

コザ高校 出身



これまでに類を見ないスピードで
発展している沖縄の観光を学ぶため琉大に。
同時に経営学も学べるのが魅力です。

観光産業科学部
産業経営学科 3年

餌取 純

球陽高校 出身

留学生との交流が、もっと学びたいという刺激になりました。大学で専門的な事を学ぶ上でも、高校生までに培った基礎的な力はとても大切です。

教育学部
学校教育教員養成課程
小学校教育コース
教科教育専攻
音楽教育専修 2年

根波 咲黄子

興南高校 出身

工学部
工学科
知能情報コース 1年

小川 花凛

旭野高等学校(愛知)出身

自分のやりたいことが見つけれず、先生の薦めで琉大の工学部に決めました。今はやりたいことがありすぎて大変です。

小さい頃からロボットに興味があり専門的な学びを得るため琉大に来ました。将来は人を助けるロボットを開発したいです。

工学部
工学科
機械工学コース 2年

上地 恭平

昭和薬科大附属高等学校 出身

理学部
海洋自然科学科 生物系 3年

島袋 舞

両国高等学校(東京)出身

自分の身を研究フィールドに置きたくて海も植物も特色の強い沖縄に、自分のルーツを辿って東京から来ました。

沖縄の伝統的な食材のもつ食品機能性について研究しています。琉大の施設は広大で研究に必要な農場がキャンパス内にあるのが魅力です。

農学部
亜熱帯生物資源科学科
食品機能科学コース 4年

宮城 美紀

普天間高校 出身

親が観光業に携わっていることもあり、沖縄で沖縄の観光を学ぶため琉大に。留学で外の世界も見ながら、持続可能な沖縄観光の実現を目指しています。

観光産業科学部
観光科学科 4年

仲村渠 裕斗

普天間高校 出身



亜熱帯の豊かな
自然と文化のなかで学ぶ！
それが琉球大学です。

琉球大学
第17代学長
西田睦

琉球大学は、学びの場としてのユニークな魅力にあふれる大学です。

その魅力はまず、本学がすばらしい特色ある亜熱帯の自然環境と、そこで育まれた琉球・沖縄の豊かな文化環境に包まれている、というところからもたらされます。そして、地理的にアジア・太平洋地域の要ともいえる位置にあり、異なる言語や文化をもつ人々との交流を通して沖縄という地域が体得してきた知恵が、琉球大学の教育・研究・医療・地域貢献などに活かされています。

また、学生と教員の距離がとても近いことも、琉球大学の魅力です。学生と教員との親密な関係は、本学ならではの学びの機会を、さらに有意義なものにしてくれるでしょう。

本学は、この地域の人々の熱望により、戦後間もない1950年に開学しました。そして、ミシガン州立大学の教授陣の協力を得て、「地域に根差し、地域のために」という米国の「ランドグラント大学」の精神を強く受け継ぐ大学として発展してきました。このような本学の誕生と成長の経緯にも、国際性と地域性を併せもつという本学の特色がよく表れており、これも琉球大学の教育・研究などにおける大きな強みとなっています。

このような設立経緯の中で、「自由平等・寛容平和」が建学の精神となっています。本学は、それを継承・発展させた「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追求」を基本理念としています。私たちはこれらを踏まえ、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」「地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学」を目指しています。

これから入学する皆さん、そして在学生の皆さんには、本学の魅力を最大限に活かした学びを通して、これからの社会で大いに活躍する力を身につけていただきたいと思います。皆さんがそれぞれの目標を達成できるよう、琉球大学は一人ひとりを精一杯サポートしていきます。



学長からのメッセージを動画でチェック!!

PROFILE

【略歴】

- 1972年 京都大学 農学部 水産学科 卒業
- 1977年 京都大学大学院 農学研究科 博士課程単位取得退学
- 1980年 琉球大学 理学部 助手
- 1991年 カリフォルニア大学 バークレー校 分子細胞生物学科 客員研究員
- 1992年 琉球大学 理学部 講師
- 1996年 福井県立大学 生物資源学部 教授
- 1999年 東京大学 海洋研究所 教授
- 2007年 東京大学 海洋研究所 所長
- 2013年 琉球大学 理事・副学長
- 2019年 4月より琉球大学 学長就任

【学位】

- ・農学博士（京都大学）

【専門】

- ・海洋生物学
- ・分子進化生物学

【主な受賞】

- ・生態学琵琶湖賞（1998年）
- ・日本水産学会進歩賞（1999年）
- ・Artemi Lecturer Award（2005年）
- ・日本進化学会賞（2010年） など

【主な学会活動・社会活動】

- ・日本魚類学会会長
- ・日本学術会議連携会員
- ・国立大学共同利用・共同研究拠点協議会会長 など



人文社会学部

Faculty of Humanities and Social Sciences

国際法政学科

Department of Law, Politics & International Relations

人間社会学科

Department of Sociology and Human Sciences

琉球アジア文化学科

Department of Ryukyuan and Asian Studies



大学では、与えられた問題にひたすら解答したり、その解き方をひとり暗記したりするよりも、そもそも問題を自ら立て、それへの解を、ときには仲間と協働しながら見出していくような学びが主になります。人文社会学部では、学生の皆さんがこのような学びを深め、未来を構想し、それを社会に向けて発信する力を4年間で十分に養えるよう、全力でサポートします。沖縄、日本、アジアなど私たち・コミュニティが抱える課題、その歴史的・文化的背景、そしてそもそも人間の精神とは何か、こういった問題に興味のあるあなたにきっとふさわしい学部です。

人文社会学部長
あんどう よしひ
安藤 由美



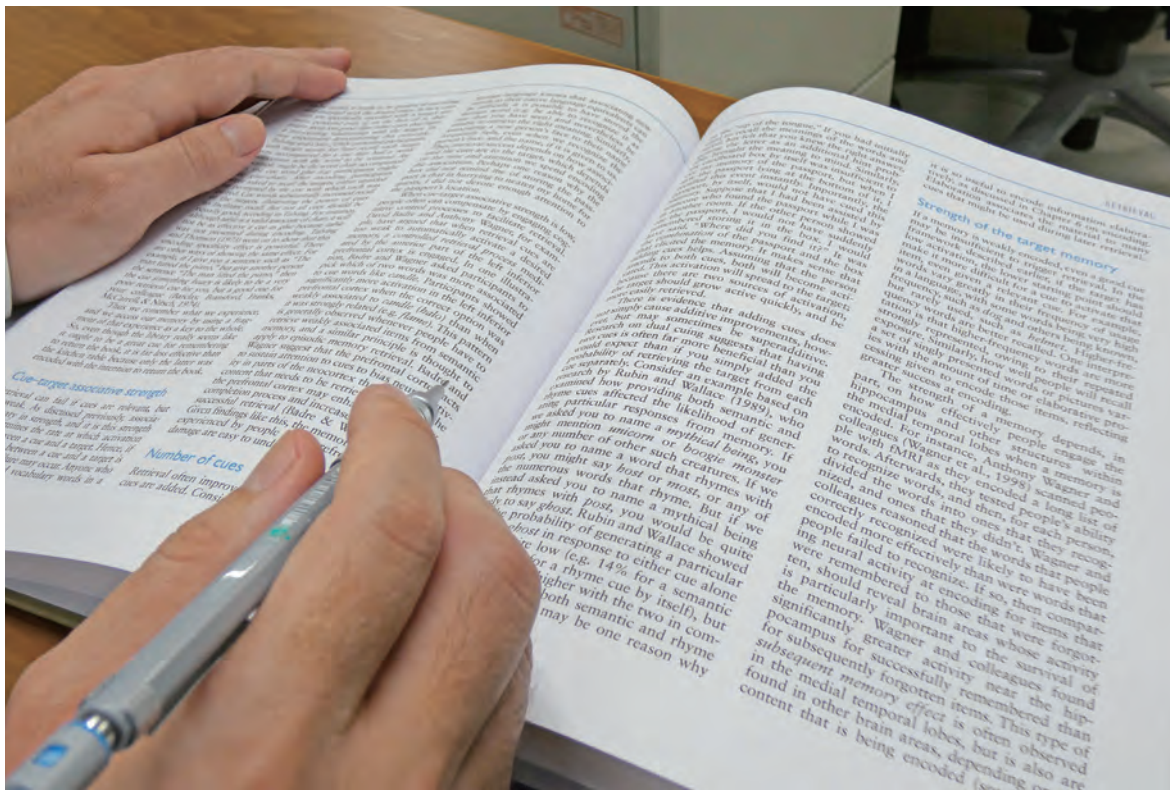
人文社会学部HP



国際法政学科

Department of Law, Politics & International Relations

法と政治、国際関係の「知」から日本・国際社会を考察、俯瞰する



法学プログラム

- 憲法
 - 民法
 - 行政法
 - 刑事法
 - 商法
 - 民事手続法
 - 労働法
 - 社会保障法
 - 国際法
 - 法学演習
 - 特修科目
(LS進学等特修クラス)
- など

政治・国際関係学プログラム

- 公共政策学
 - 政治思想史
 - 比較政治学
 - 行政学
 - 地方自治論
 - 国際政治経済論
 - 政治過程論
 - 国際政治学
 - 国際社会学
 - 日本政治外交史
 - 国際関係史
 - 平和研究
- など

Admission Policy - 求める人材像 -

人間社会や社会諸科学への深い関心、柔軟な思考力、主体的に学ぶ意欲を持った人を求めています。

○一般入試(前期日程)

全科目に対してバランスのとれた基礎学力を有することはもちろん、社会情勢を広く認識し、問題意識を持つために論理的思考力と外国語能力を十分に身に付けている人を求めています。

○一般入試(後期日程)

社会科学を学ぶための基礎学力を有することはもちろん、社会情勢を広く認識し、問題意識を持ち、それらを論理的に説明できる人を求めています。

○推薦入試II

人間社会や社会科学への深い関心、柔軟な思考力、主体的に学ぶ意欲を持った人を求めています。全科目に対してバランスのとれた基礎学力を有することはもちろん、社会情勢を広く認識し、問題意識を持ち、それらを対話や文書で論理的に説明できる人を求めています。

人間社会学科

Department of Sociology and Human Sciences



人間の考察を中心に、諸問題の解決策を多角的視点から立案できる人材へ

哲学・教育学プログラム

- 哲学史
- 宗教哲学
- 認知哲学
- 教育社会学
- 教育福祉論
- 哲学
- 倫理学
- 真理と認識
- 科学と哲学
- 教育調査 など

心理学プログラム

- 心理学研究法
- 心理学統計法
- 心理学実験
- 臨床心理学概論
- 心理実習
- 精神医学
- 知覚・認知心理学
- 社会・集団・家族心理学 など

社会学プログラム

- 社会学研究
- 社会学実習
- 国際比較社会学
- 社会調査法
- 高齢者福祉論
- 障害者福祉論
- 児童福祉論
- ソーシャルケースワーク
- マスコミ原論
- マスコミ実習 など

Admission Policy - 求める人材像 -

- 大学での学びの土台となる基礎学力を持ち、多面的な観点から物事を考察し、多様な人々と協働しながら自分なりの意見をまとめることができる人
- 思想・教育・心・社会に強い関心を持ち、よりよい生き方や教育・市民社会の発展・生活問題の解決に貢献したいと思う人
- すべての科目で十分な基礎学力を有し、論理的思考・問題解決能力に秀で、専門的学問分野・職業に対する目的意識が高く興味関心が明確な人

琉球アジア文化学科

Department of Ryukyuan and Asian Studies

琉球・日本・アジアの言語や文化・歴史を学究し専門的知識を深める



歴史・民俗学プログラム

- 中琉関係史概論
- 琉球民俗学野外調査
- 琉球史概論
- 歴史伝承史料調査実習
- 琉球民俗学概論
- 琉球民俗学研究
- 琉球史資料講読
- 中琉関係史研究
- 琉球史研究
- など

言語学プログラム

- 中国語学概論
- 琉球語学野外調査
- 日本語学概論
- 中国語史
- 琉球語学概論
- 言語学外書講読
- 音声学
- 古典日本語概論
- 言語地理学実地調査
- 日本語教材研究
- など

文学プログラム

- 中国文学概論
- 日本文学概論
- 琉球文学概論
- 朝鮮文学概論
- 琉球文学講読
- 朝鮮文学講読
- 中国近現代文学講読
- 日本文学史
- 琉球文学野外調査
- 日本文学野外実習
- など

Admission Policy - 求める人材像 -

研究対象である琉球アジア言語文化圏(沖縄、日本、中国、台湾、朝鮮半島)の言語、文学、文化、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を有し、彼我の相違と類似性の面に目を向けつつ主体的・積極的研究のできる人を歓迎します。

具体的には、下記の人材を求めます。

- 専攻分野の研究資料・情報を収集する能力
- 収集した資料や情報の整理・分析を通して独自の視点から意見を持ちうる能力
- 研究した成果を論理的にまとめて説得力のある発表ができる技能
- 他者との議論や意見交換を通して多様な見解や価値観を学び、内省し、柔軟に修正・改善する姿勢

改組の概要

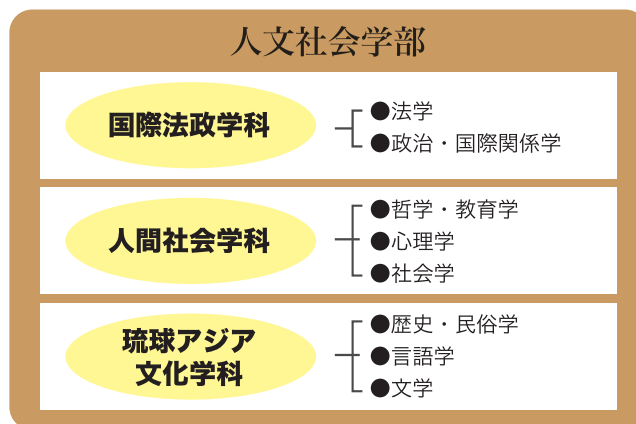
改組前



※国際地域創造学部へ

改組後

平成30年4月以降



国際法政学科

80名

- 法学プログラム
- 政治・国際関係学プログラム

人間社会学科

80名

- 哲学・教育学プログラム
- 心理学プログラム
- 社会学プログラム

琉球アジア文化学科

40名

- 歴史・民俗学プログラム
- 言語学プログラム
- 文学プログラム

1年次後学期終了後にプログラムに配属を決定します。

よくある質問 Q&A

Q. 入試の募集単位はどうなっていますか？

A. 入試は各学科単位で募集を行いますが、人間社会学科の推薦入試Ⅱのみは各プログラム別で募集を行います。

Q. プログラムへの配属はどのようになっていますか？

A. 1年次は合格した学科に配属します。プログラムへの配属は、1年次後学期を終了した時点で、本人の希望と1年次の成績等に基づき、下記の学科ごとに、いずれかのプログラムに決定します。このように、全ての学生は、2年次前学期から各プログラムに配属されることとなります。

学科	選考過程	受入人数
国際法政学科	法学プログラム	40名
	政治・国際関係学プログラム	40名
人間社会学科	哲学・教育学プログラム	18名
	心理学プログラム	30名
	社会学プログラム	32名
琉球アジア文化学科	歴史・民俗学プログラム	14名
	言語学プログラム	13名
	文学プログラム	13名

なお、上記に示すプログラムの次に記した人数は、受入人数の目安であり、各プログラムへの配属数は最終的に変動する場合があります。また、学生本人の成績やプログラムの受入人数(目安)等により、全学生の希

望どおりの配属とならない可能性もあります。そのため、出来る限り希望するプログラムへ配属されるように、説明、指導を行う予定です。

Q. 人間社会学科の推薦入試Ⅱのみは各プログラム別で募集を行うということですが、この場合でも、2年次から希望のプログラムへ入れないことがあるということでしょうか？

A. 合格した各プログラムに配属されるよう指導しますが、本人の希望が変更になった場合や入学後の成績等により、合格したプログラムに配属されない場合もあります。

Q. 履修することによって取れる免許、資格等について教えてください。

A. 教職に関しては、人間社会学科で「高等学校教諭一種免許状(公民)」、琉球アジア文化学科では「中学校教諭一種免許状(国語)」と「高等学校教諭一種免許状(国語)」が取得可能です。学芸員の資格は学科を問わず必要な科目の単位をとれば取得可能です。人間社会学科の社会学プログラムでは社会福祉士の受験資格が得られます。心理学プログラムでは認定心理士が取得できます。また、公認心理師の受験資格を得るためのカリキュラムにも対応しています。(ただし、学部卒業だけでは受験資格が得られません。その後、公認心理師に対応したカリキュラムを提供している大学院に進学するか、所定の実務経験が必要です。)



国際地域創造学部

Faculty of Global and Regional Studies

国際地域創造学科

Department of Global and Regional Studies

観光地域デザインプログラム

Tourism Sciences

経営プログラム

Management

経済学プログラム

Economics

国際言語文化プログラム

Global Languages and Cultures

地域文化科学プログラム

Geography, History and Anthropology



国際地域創造学部は、グローバルとローカルを併せ持つ視野によって、地域社会における現代的課題の解決や国内外の産業・文化の振興に寄与できる人材の育成という教育目標を掲げています。受験生の皆様、本学部に入學し、「国際」「地域」「創造」が自分にとってどのような意味を持ち、それをどのように組み合わせて自分の学びを究め、卒業後に地域社会、国際社会においてどのような貢献できるのかを考えてみませんか。卒業までにはその答えが見つかります。

国際地域創造学部長
いしはら まさひで
石原 昌英



国際地域創造学部HP

Admission Policy - 求める人材像 -

- 地域の文化・社会について多様な学問的見地から興味を持ち、主体性をもって課題に取り組み、そしてより良い課題解決のために様々な立場の人々と意見を交換しつつ実行することができる人。
- 現代の地域・国際社会をめぐる多様な課題に対して関心を持ち、自らの感性と経験をととして他者や社会へと関わり、得られた知見を社会全般に還元する態度を備えている人。
- 21世紀型市民として必要な学際的教養を身に付ける意欲を持ち、他者や異文化の持つ多様な価値観に対して柔軟な態度を身に付けている人。



観光地域デザインプログラム

Tourism Sciences

観光と地域について探究し、社会で創造的に活躍する人材を育成する



- | | | | |
|------------|-------------|------------|---------------|
| ■ 観光経済学 | ■ 観光自然人類学 | ■ 国際観光論 | ■ 観光地域デザイン入門 |
| ■ 観光政策論 | ■ 旅行ビジネス論 | ■ 観光心理学 | ■ 観光とサステナビリティ |
| ■ 観光地理学 | ■ 宿泊サービス論 | ■ 自然観光資源概論 | ■ テーマ型ツーリズム入門 |
| ■ 観光社会学 | ■ ヘルスツーリズム論 | ■ 文化観光資源概論 | ■ 島嶼観光入門 など |
| ■ エコツーリズム論 | ■ バリアフリー観光論 | ■ 社会調査法 | |

本プログラムは、グローバル化時代が進展する中、持続可能な開発に資する人材、高い学士力を身につけ、現代社会で創造的に活躍できる人材を育成することを目的とします。観光地域デザインプログラムとは、観光ビジネス、観光政策、自然・文化資源のマネジメント、地域開発など様々な領域から学際的に「観光」「地域」「観光と地域の関係」、あるいはそれらの成り立ちや振興を考える学問領域です。本プログラムでは、サステナブルツーリズム(持続可能な観光)のコンセプトを基盤に、「ヘルスケアデザイン&ツーリズム分野」「観光地開発分野」「地域資源マネジメント分野」「観光ビジネス分野」の4つの分野を中心に、文理融合型の学際的アプローチによって、観光と地域について探求してゆきます。

2年次後期から始まる本コース独自のプログラムにおいては、観光や地域デザインに関する専門科目を提供するとともに、コミュニケーション能力を高めるために外国語運用能力の向上を重視した科目を提供します。併せてインターンシップ等をキャリア開発のための科目及び、より高度な専門科目を提供し、問題を解決する能力の向上を図ります。

経営プログラム

Management



- 組織行動論
- 経営組織論
- 観光情報論
- 観光マネジメント論
- 会計学
- 経営戦略論
- 観光情報論
- 広告論
- コーポレートファイナンス理論編
- サプライチェーン・マネジメント
- 観光マーケティング論
- 税法基礎
- 管理会計基礎論
- 人的資源管理論
- 観光事業論
- サービスマネジメント論 など

「経営」というと、会社の社長さんや部長さんの仕事で自分とは関係ないことだと思いませんか？

確かに「経営」とは会社という組織を仕切る仕事を指す場合が多いかもしれませんが。しかし、「経営」という言葉の意味はとてもシンプルです。それは、「目的を達成するために、継続的計画的に意思決定を行い、実行に移す(大辞泉より引用)」ということです。こう考えると、「経営」という言葉の距離がかなり近くなったのではないのでしょうか？例えば自分の所属するサークルやクラブを強くしたり、人々に注目されるようにするのも経営です。あるいは、将来なりたい自分がいて、それを目指して今からどのような筋道をとればその目標に辿り着けるかを考えるのも経営です。

「経営」の出発点として、まずは目指すべく魅力的な目標を設定することが必要となります。それは自分だけが享受できるメリットを考えることでもあります。そして、目標に向かって進むには、行動に移すためのエネルギーが欠かせません。そのエネルギーとは、自分のやる気、能力、人脈、使える道具や資材、資金、知識、ノウハウなどです。突き進むエネルギーを無駄なく運用することのできる人材になって下さい。

「経営」の学びを通して、目標に向かって積極的に行動できる人材を育てる



経済学プログラム

Economics

経済について幅広く学び、経済学の視点から社会の現状を捉え、解決する力を



- 経済数学
- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 基礎統計学
- 日本経済史
- 西洋経済史
- 経済政策論
- 財政学
- 金融論
- 計量経済学
- 国際経済学
- ゲーム理論
- 環境経済学
- 労働経済学
- 公共経済学 など

ビッグデータ、人口知能(AI)、モノのインターネット(IoT)といった新しい技術が次々と生み出され、社会は刻一刻と変化し、人々の生活にも大きな影響を及ぼしています。こうした技術が生み出される源は何なのでしょう？社会は今後、どのように変化していくのでしょうか？そうした中で、私たちはどのように行動していけばいいのでしょうか？

経済学を学ぶことで、社会の現状を理解し、その変化の方向を予測し、そこから得られた知見をもとに判断し行動することができます。経済学プログラムでは、基礎的な内容から応用理論に至るまで、歴史(経済史)や政策(社会政策、経済政策)も踏まえながら、経済について幅広く学ぶことのできるカリキュラムを提供しています。また、データを活用した統計分析(計量経済)、社会に出た上で役立つスキルや実践力の習得(実践経済学)にも力を入れています。経済学の視点から社会を捉えることで、社会の仕組みを理解し、地域の抱える問題点を見出し、適切な解決策を提案できるような、そんな人材を目指しませんか。

国際言語文化プログラム

Global Languages and Cultures



- 英文法演習
- 言語コミュニケーション概論
- オーラルコミュニケーション
- イギリス文学概論
- アメリカ文学概論
- アカデミック・プレゼンテーション
- イギリス文学研究
- アメリカ文学研究
- ドイツ語トレーニング
- フランス語トレーニング
- スペイン語トレーニング
- ドイツ社会研究
- 異文化実地研修
- フランス文化研究
- スペイン語文学史 など

国際言語文化プログラムは、英米、ドイツ、フランス、スペイン語圏(南米)の言語、文学、文化を包括的かつ専門的に学びたい学生や、日本語や日本事情について学びたい外国人留学生のためのプログラムです。

本プログラムの学生は、言語、文学、文化の専門的な授業や、ネイティブ・スピーカーの先生による授業、留学生との交流、そして英語圏やヨーロッパ(または南米)での研修などを通して、高度な外国語運用能力の獲得をめざします。英語には、昼間主コースのほか、社会人や働く学生も学ぶことができる夜間主コースもあります。また、本プログラムは、沖縄で唯一、ドイツ・フランス・スペイン語圏の言語、文学、文化について専門的に学ぶことができるプログラムでもあります。

自分の選んだ言語の習得を通して、その文化や社会を深く知り、世界の人々と自由自在に対話する力を獲得できたら、それまで遠いと思っていた「世界」は案外あなたの身近にあることを実感できるでしょう。

言語、文学、文化の専門的な授業と、高度な外国語運用能力の獲得を目指す



地域文化科学プログラム

Geography, History and Anthropology

資料解読やフィールドワークを通して、「地域」や「文化」について総合的に学ぶ



地理学

- 地理総合
- 人文地理学概論
- 自然地理学概論
- 地誌学概論

歴史学

- 歴史総合
- 日本史概論
- 世界史概論(西洋史)
- 世界史概論(東洋史)

人類学

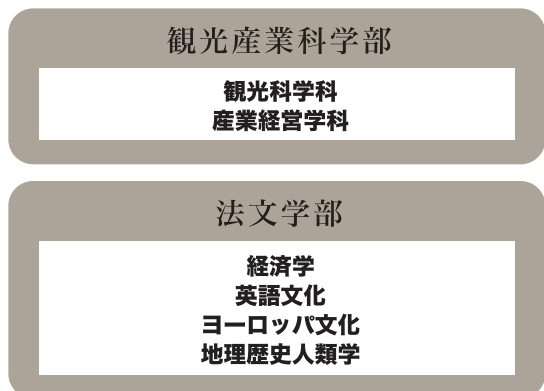
- 人類文化入門
- 考古学 I
- 社会人類学 I
- 民俗学 I など

地域文化科学プログラムでは「人間」について、空間、時間、文化とのかかわりから学ぶことができます。ただし単なる理論だけでなく、古文書や図像などの史料解読を通して、さらに巡検や現地調査・発掘、聞き取り・参与観察などのフィールドワークを通して学べるプログラムです。またGISなどの地図に関するスキルも身につけることができます。

本プログラムは複雑・緊密化する世界を地理学、歴史学、文化人類学の最新の研究成果をもとに、総合的に理解することを目指しています。史料に親しみ、フィールドに出かけ、人類が培った我々へのメッセージ、現代に生きる人々の多様な暮らし方、さらにそれらが置かれた環境などについて考えていきませんか。

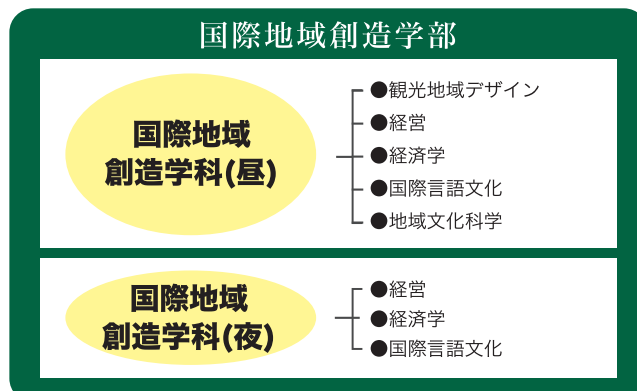
改組の概要

改組前



改組後

平成30年4月以降



国際地域創造学科

昼間主コース

265名

- 観光地域デザインプログラム
- 経営プログラム
- 経済学プログラム
- 国際言語文化プログラム
- 地域文化科学プログラム

国際地域創造学科

夜間主コース

80名

- 経営プログラム
- 経済学プログラム
- 国際言語文化プログラム

2年次前学期(昼), または1年次後学期(夜)終了後にプログラムに配属を決定します。

よくある質問 Q&A

プログラム・カリキュラム等

Q. 学科単位での大括りの入学者選抜になり、2年次後学期(昼間主)あるいは2年次前学期(夜間主)に学生の配属が決まるということですが、学生が希望するプログラムに入れない場合がありますか。

A. 基本的には学生の希望に応じた配属になりますが、各プログラムの目安となる人数の上限をこえる場合には、学生本人の希望と成績(昼間主コースは2年次前学期まで、夜間主コースは1年次後学期まで)を判定基準としてプログラムの配属を決定することになっていきますので、その可能性は否定できません。しかし、1)オリエンテーション時に各プログラムの履修条件(必修や選択必修等)を丁寧に説明すること、2)指導教員による個別履修指導の際にプログラム選定に関する説明と相談に応じる、等のいろいろな工夫をしますので、学生の皆さんの希望におおむね沿うことができると考えています。

Q. 推薦入試も学科単位での入学者選抜ということですが、この選抜方法で入学した場合でも、学生が希望するプログラムに入れない場合がありますか。

A. 一般入試の場合と同様に、基本的には学生の希望に応じた配属になりますが、各プログラムの目安となる人数の上限をこえる場合には、学生本人の希望と成績(昼間主コースは2年次前学期まで、夜間主コースは1年次後学期まで)を判定基準としてプログラムの配属を決定することになっていきますので、その可能性は否定できません。しかし、上述のQ&Aの通り、いろいろな工夫をしますので、学生皆さんの希望におおむね沿うことができると考えています。

資格・免許、その他

Q. 履修することによって取得できる免許や資格等について教えてください。

A. 各プログラムで取得できる教職免許は、以下の通りです。
国際言語文化プログラム(昼間主・夜間主):「中学英語」、「高校英語」
経済学プログラム(昼間主):「中学社会」
地域文化科学プログラム:「中学社会」、「高校地歴」

Q. 在学中に留学を考えているのですが、1年間留学しても4年間で卒業することはできますか。

A. 卒業には、8箇学期(1箇学期は半年間)在学しないといけないというルールがありますので、1年間留学した場合、卒業には5年間かかるということになります。ですが、本学と交流協定のある大学に留学すれば、留学先で取得した単位は、一定の条件を満たせば、学部の単位に換算することはできます。その場合、4年間で卒業することができる可能性はあります。



教育学部

Faculty of Education

学校教育教員養成課程

Elementary and Secondary School Teacher Training Program

小学校教育コース

中学校教育コース

特別支援教育コース



教育学部は、高等教育機関であると同時に教員養成機関です。高等教育機関としては、学士（教育学）という学位を取得する教育課程を編成しています。教員養成機関としては、小学校教諭および中学校教諭の一種免許を取得可能な教職課程を中心に編成しています。学士としての処理能力を修得しながら、それを踏まえた教諭としての職能を培っていく、その意欲を有する諸君の入学を待っています。

教育学部長
たから くらしげ
高良 倉成



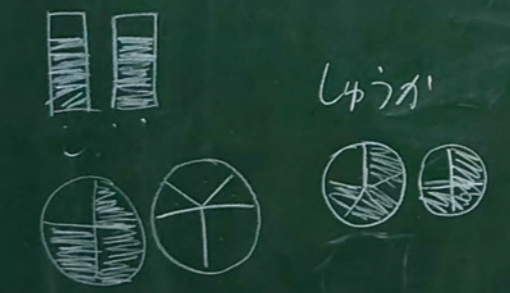
教育学部HP



(金)
6
4
2
1/4
1
7

としは しょうか
4 3
5 4
同じ?
小数?

分母も分子もちがう分数って
どうやって比べるの?



$\frac{4}{5} \xrightarrow{\times 2} \frac{8}{10}$
 $\frac{3}{4} \xrightarrow{\times 2} \frac{6}{8}$
 $\frac{4}{5} \xrightarrow{\times 3} \frac{12}{15}$

	$\times 2$	$\times 3$	$\times 4$	$\times 5$	$\times 6$	$\times 7$
$\frac{4}{5}$	$\frac{8}{10}$	$\frac{2}{15}$	-	-	-	-
$\frac{3}{4}$	$\frac{6}{8}$	-	-	-	-	-

学校教育教員養成課程

Elementary and Secondary School Teacher Training Program

学校が抱える教育の多様な課題に向き合い、柔軟かつ力強く対応する専門家の養成に向けて



小学校教育コース	中学校教育コース	特別支援教育コース
学校教育専攻 教育実践学専修 実践と理論とを往還的に学ぶ機会を繰り返し提供し、そこで得た学修の成果を子ども一人一人に対応・還元できる指導力にまで高め、児童の豊かなく学びへの創造に結びつけていきます。	学校教育専攻 子ども教育開発専修 学校に留まらず家庭や地域など「場所」での子どもとの関わりから自己を問う体験を通し子どもの専門的理解をめざします。子どもたちの生活世界の中にある学校づくりを支える教育実践を創出します。	教科教育専攻 各教科教育専修 実践的指導力(授業力)の支えとなる教材への解釈力と教材からの展開力を、専門系・教育系学修のスパイラルにより身につけます。また、実際の授業現場を観察・経験する機会を多く提供します。
	教科教育専攻 各教科教育専修 小・中学校を見直し、探求する喜びを育む「学び」を構想できる専門性を高め、多くの現場体験を通して発達段階や生活環境など諸問題への認識と、教科の壁を越え同僚と協働できる姿勢を習得します。	特別支援教育専攻 特別支援教育専修 特別支援教育に関する基礎的・基本的知識を身につけるとともに、少人数の演習形式の授業やボランティア活動により、一人ひとりの事情に即した臨場的な実践力を獲得します。

4年間の学び

これらは教育学部で学べる科目のほんの一例です。ここに書かれている以外にも、各専修からさまざまな科目が提供されています。

教育について多角的に学べる科目	小学校教員になるための科目	中学・高校教員になるための科目	子どもを知るための科目	教職実践系の科目
<ul style="list-style-type: none"> ●教職入門 ●教育原理 ●教育課程 ●教育方法 ●教育心理学 ●特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援 ●総合的な学習の時間の授業づくり ●特別活動論 ●生徒指導論 ●教育相談 ●学校カウンセリング ●道徳教育の理論と実践 ●教育行政学 ●学校社会学 ●教育の制度 ●離島・へき地教育概論 ●子どもと多言語・多文化教育 ●新聞活用講座 ●平和教育概論 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語概説 ●初等国語科教育法 ●社会科要説 ●初等社会科教育法 ●数学概論 ●初等算数科教育法 ●自然科学概論 ●初等理科教育法 ●音楽 ●初等音楽科教育法 ●小専美術 ●初等図工科教育法 ●体育 ●初等体育科教育法 ●家庭 ●初等家庭科教育法 ●外国語 ●初等外国語教育法 ●生活科教育概論 ●初等生活科教育法 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語科教育法 ●日本文学概論 ●社会科教育法 ●日本史概論 ●数学科教育法 ●代数学序論 ●理科教育法 ●物理学実験 ●音楽科教育法 ●音楽基礎理論 ●美術科教育法 ●美術理論・美術史基礎 ●体育科教育法 ●生理学・運動生理学 ●技術科教育法 ●基礎製図 ●家庭科教育法 ●栄養学 ●英語科教育法 ●英米文学概論 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの世界・学びの世界 ●理解と表現の基礎的スキル ●小学校教育フィールドワーク ●小学校教育研究法 ●子どものからだと動き ●子どもと生活のなかのこぼれ ●乳幼児教育学 ●子どもと自然体験活動 ●認知心理学 ●子ども読書論 ●特別支援教育概説 ●知的障害者の心理 ●自閉症障害者教育総論 	<ul style="list-style-type: none"> ●教職体験Ⅰ ●教職体験Ⅱ ●介護等体験指導 ●学校教育実践研究 ●小学校教育実習 ●中学校教育実習 ●特別支援学校教育実習 ●幼稚園教育実習 ●高等学校教育実習 ●教職実践演習 ●教育実践フィールドワーク ●教職インターンシップ ●模擬授業

Admission Policy - 求める人材像 -

本学部は、1 課程(学校教育教員養成課程) 3 コース(小学校教育コース・中学校教育コース・特別支援教育コース)から成ります。

学校教育教員養成課程では、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、次のような人材を求めています。

- 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきたい人
- 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人
- 高等学校での基礎学力を身に付け、思考力、判断力、表現力を持つ人
- 沖縄の歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人



理学部

Faculty of Science

数理科学科

Department of Mathematical Sciences

物質地球科学科

Department of Physics and Earth Sciences

海洋自然科学科

Department of Chemistry, Biology and Marine Science



理学部長
いざわ まさこ
伊澤 雅子

理学部では、「すべては理学から始まる」という理念のもと、基礎をベースに、亜熱帯、島嶼、台風、海洋など琉球列島の自然を表すキーワードのすべてを、さらに、エネルギー、情報、コンピューター、有用物質など私たちの生活と関わるものも研究と教育の対象としています。沖縄の特徴である島嶼と海洋は国境と関係なくそのまま海外へつながり、理学研究も世界へと広がっています。皆さんも自由な発想で理学の世界を楽しんで下さい。



理学部HP

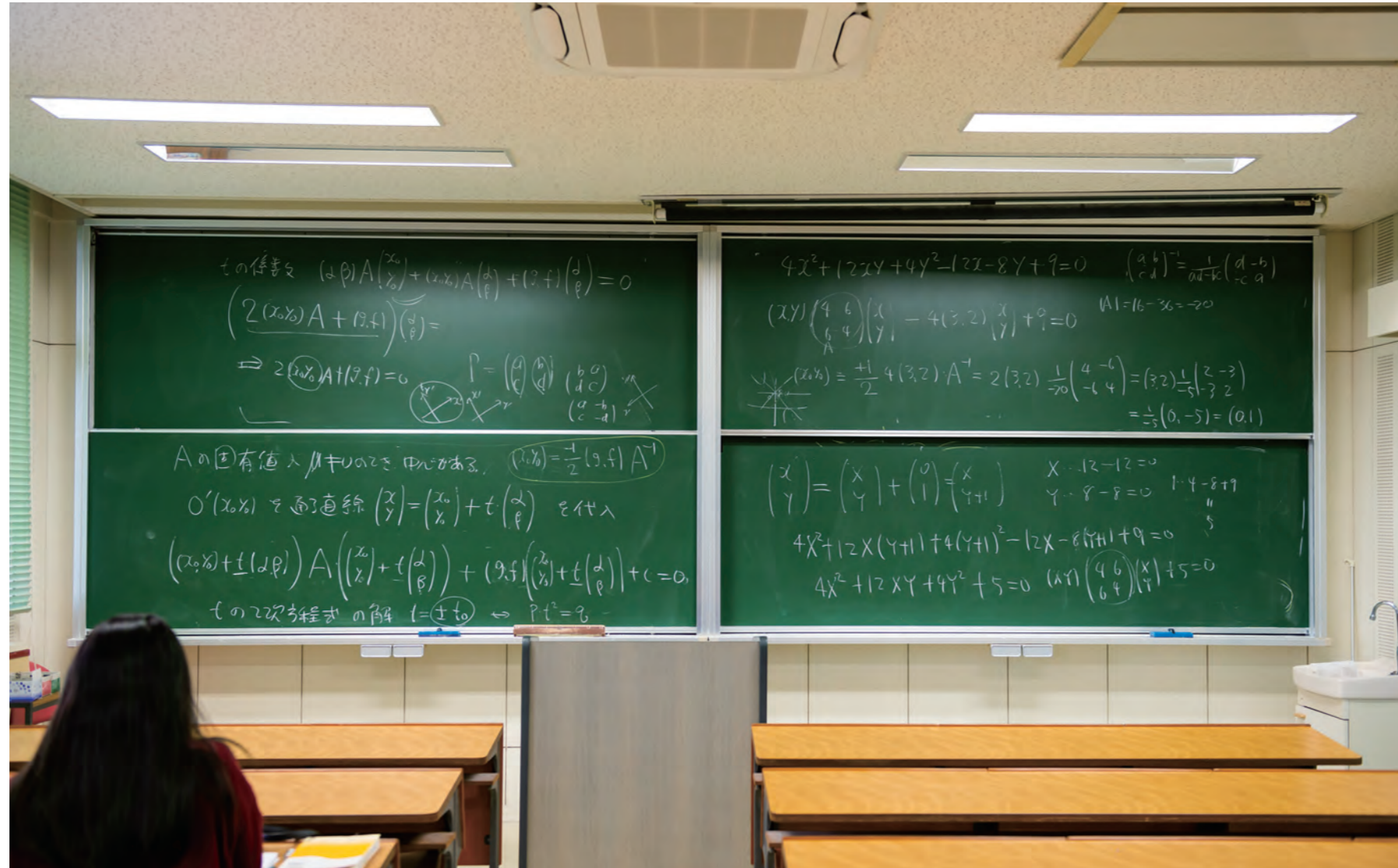


日本初の航空機観測でとらえられた2017年台風21号の目と壁雲
(理学部山田広幸准教授提供)

数理科学科

Department of Mathematical Sciences

現代社会を支える情報・科学技術の発展を担う
 数学の専門家を養成するための教育を展開



高校で学ぶ三角関数や微分積分は医療機器であるCTスキャンに
 応用されています。インターネットの暗号通信には整数論や符号
 理論が使われています。確率論は経済学に応用され、保険数理人
 (アクチュアリー)になるには統計や確率の学修が必須です。この
 ように、現代社会を支える情報・科学技術の運用には“大学で数学
 を修めた人材”が必要不可欠とされており、数理科学科ではコン
 ピュータ関連をふくむ広範囲な分野の数学が学べるようになって
 います。また、数理科学科では中学校や高校の数学教員の養成も目
 標のひとつにしており、生徒が抱きがちな「なぜ数学をまなぶの
 か?」という疑問に向きあい、答えることができる教育理論の修得
 にも注力しています。



4年間の学び

1年次	2年次	3年次	4年次
<ul style="list-style-type: none"> ●「数学序論」では、大学での数学独特の記号や表現の使い方、論理的に考える方法について学びます。「微分積分学」と「線形代数学」はすべての数学の基礎となる必修科目です。 ●「基礎ゼミ」は先生と気軽に会話しながら行う少人数制の演習です。共通教育では英語などの一般教養科目の中から科目を選んで受講します。教職を目指す学生は教職科目も受講します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「代数学序論」では整数や群、環、体などの抽象的な代数学を、「幾何学序論」では無限大や、距離・近さの概念を一般化した位相空間を扱う幾何学を、「解析学序論」ではいわゆるε-δ論法を使って収束や発散、面積や体積を定義する解析学を学びます。 ●「情報処理やプログラミングの基礎」を学びます。アクチュアリーを目指す学生向けの「保険数学」が受講できます。教職を目指す学生は「数学科教育法」も履修します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「代数学」、「幾何学」、「解析学」、「関数解析学」、「確率統計学」などが開講。代数学では角の3等分の不可能性や代数方程式の可解性についてのガロア理論を、幾何学では図形を高度に把握するトポロジーや微分幾何学を、解析学では複素変数の関数を扱う複素関数論や微分方程式の理論などを学びます。これらは選択科目です。また、沖縄の経済に関する授業、他大学の教員による集中講義も開講しています。県内外の企業や官公庁でインターンシップを体験する学生もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「卒業研究」は、共通の専門分野に興味をもつ学生が教員のゼミに所属してセミナー形式(予習内容を講義形式で発表しながら専門書を読み進める)で学ぶ科目で、これまでの学びの総まとめです。大学院に進学する人にとっては、将来の研究に向けた準備にもなります。テーマは純粋数学に限らず、計算機言語やアクチュアリーなどの資格試験を扱うゼミもあります。教員免許を取得する学生は、前期に中学または高校で「教育実習」を行い、後期に「教職実践演習」を履修します。

Admission Policy - 求める人材像 -

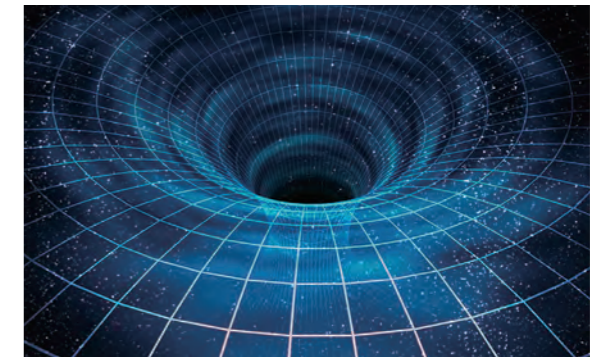
数理科学科では教育理念に基づいて、次のような人を求めています。

- 基礎的な数学の知識・思考力を備えている人
- 未知の数学に対する好奇心が旺盛である人
- 強い勉学意欲を持ち、積極的に数学を学び、修得した知識や技術等を社会に役立てたい志のある人

物質地球科学科

Department of Physics and Earth Sciences

物質・素粒子・宇宙から大気圏・水圏・岩石圏まで
物理系と地学系の各分野に広がる専門学修



物理系

物理学には物質の電氣的、磁氣的、光學的な性質などを研究する物性物理学、素粒子とその運動法則を探究する素粒子物理学、宇宙を対象とする宇宙物理学などの分野があります。物理系ではそういった分野の基礎が学べる科目を配置し、物理学を体系的に理解していきます。



地学系

上空の大気圏、海洋を主とした水圏、地上・地下の岩石圏、これらでの現象について、地質学・物理学・化学・生物学などの手法を用いて研究します。また、海に囲まれた亜熱帯島嶼という沖縄の特性を活かし、琉球島弧や周辺の海底の地質とその成り立ち、火山・地震の活動、サンゴ礁海域の地学的環境問題、黒潮、亜熱帯気象、台風などが研究できるのも特色のひとつです。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
物理系	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎ゼミⅠ・Ⅱ ●物理学Ⅱ ●力学 ●物理学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理学Ⅰ・Ⅳ ●電磁気学Ⅰ・Ⅱ ●物理実験学 ●波動論 ●エレクトロニクス入門 ●解析力学 ●プログラミング入門 ●物理実験Ⅱ ●原子物理学 ●数値解析演習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理学Ⅲ ●光学 ●相対論 ●一般相対性理論 ●初等量子力学 ●量子力学 ●熱力学 ●統計力学 ●流体力学 ●計算物理学 ●数値解析演習Ⅱ ●物理実験Ⅲ・Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ●物性論 ●量子力学特論 ●統計力学特論 ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 卒研テーマ ・物性物理学 ・素粒子物理学 ・宇宙物理学 等 </div>
地学系	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎ゼミⅠ・Ⅱ ●地球科学Ⅰ・Ⅱ ●海洋地学実習 	<ul style="list-style-type: none"> ●地学概論 ●岩石鉱物学入門 ●地震学 ●放射線環境地学 ●気象学 ●物理学演習 ●流体力学 ●地層学 ●地球科学のためのデータ解析 	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋堆積学 ●海洋地質学 ●地質図学演習 ●海洋底地球科学 ●海洋物理学 ●台風物理学 ●固体地球物理学 ●海洋微生物学 ●計算地球科学 	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋地学セミナーⅠ・Ⅱ ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ

Admission Policy - 求める人材像 -

物理系

物理系では教育理念・目的に基づいて、次のような人を求めています。

- 基礎学力を備え、科学的な好奇心に富み、探究心や勉学意欲の強い人
- 科学的な基礎知識や思考法を学び、それらを社会人として生かしたい人
- 物理系の勉学を基に、広い意味での科学者として自らを磨く人

地学系

地学系では地球と海洋に関する自然現象に興味を持ち、意欲的に地球科学の知識を身に付け、探究心に富む人を求めています。特に熱帯・亜熱帯域の島弧や海洋で起きている自然現象に興味のある人を求めます。

海洋自然科学科

Department of Chemistry, Biology and Marine Science

亜熱帯島嶼・海洋地域の特性を活かした教育により
人と自然の共生に寄与する人材を育む



化学系

物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、海洋化学を学び、多様な物質の反応や構造、機能を分子科学的に学びます。また、物質の物性や構造、水素エネルギー、化学センサー、新規物質の創成に関する基礎研究、越境物質の大気化学など亜熱帯島嶼・海洋の地域特性を活かした研究を行います。



生物系

琉球列島の自然環境を活かし、多様な生命現象と基本原理の理解をもって、さまざまな分野で生物学の学識と技能を発揮する人材を育成します。またサンゴ礁・島嶼生態系の包括的な理解と保全をめざした研究を進め、生物多様性と生命現象の基本原理の理解に向けた多角的・総合的研究を展開します。

Admission Policy - 求める人材像 -

化学系

化学系では琉球大学の求める学生像に従い、自然を化学の目を通して見ることに興味を持ち、本系が提供する教育カリキュラムで修得した知識や技術等を社会に還元し、学術研究の後継者、産業界をリードする技術者及び化学の教育を担う教師のみならず教育界のリーダー的存在となる人材を求めています。したがって、化学系では次のような資質を持った人を求めています。

- 物質や自然環境の成り立ちについて興味を持っている人
- 化学を学ぶための基礎知識を備えた人
- 修得した化学の知識や技術等を社会に役立てたい人

【一般入試】

上記の基本方針に基づき、基礎的な学力と思考力を備え、琉球大学で学ぶ強い意志を有し、本系で修得した知識や技術等を社会の役に立てたいという意欲のある人を求めています。

【推薦入試Ⅱ】

上記の基本方針に基づき、一般入試と同等の基礎学力を有することの他に、特に高等学校で化学クラブの活動をおこなう等、物質や自然を化学の目を通して見ることに意欲的な人を求めています。

生物系

生物系では、地域国際社会で生物学が果たすべき役割を視野に入れながら、琉球列島の豊かな自然環境が持つ特色を最大限に生かし、多様な生命現象とその根底にある基本原理の理解を目指した教育・研究を行っています。こうした理念のもと、生物系では次のような人を求めます。

一般入試では次の3つを備えた人を求めます。

- 多様な生命現象と生物を取り巻く自然環境に興味を持ち、深く学びたいという意欲のある人
- 自らの目標に向かって主体的に物事を考え、積極的に行動できる人
- 生物学を学ぶために必要な基礎知識を備えている人を求めています。

推薦入試Ⅱでは、これらに加えて、海洋の生物資源にも興味のある人を求めています。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
化学系	●基礎ゼミⅠ・Ⅱ	●物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●無機化学Ⅰ・Ⅱ ●分析化学Ⅰ・Ⅱ ●無機化学実験 ●分析化学実験Ⅰ・Ⅱ	●海洋無機化学 ●海洋有機化学 ●物理化学実験 ●有機化学実験Ⅰ・Ⅱ ●サンゴ礁の化学	●セミナーⅠ・Ⅱ ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ
生物系	●基礎ゼミⅠ・Ⅱ ●熱帯生物学概論 ●熱帯生物生産学概論	●植物形態解剖学 ●サンゴ礁生態学 ●細胞学 ●分子生理学 ●陸水生態学	●海洋資源生物学 ●生物学野外実習などの多様な講義・実習 ●生物学ゼミナールⅠ(3年次後期)	●生物学ゼミナールⅡ ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ



医学部

Faculty of Medicine

医学科

School of Medicine

保健学科

School of Health Sciences

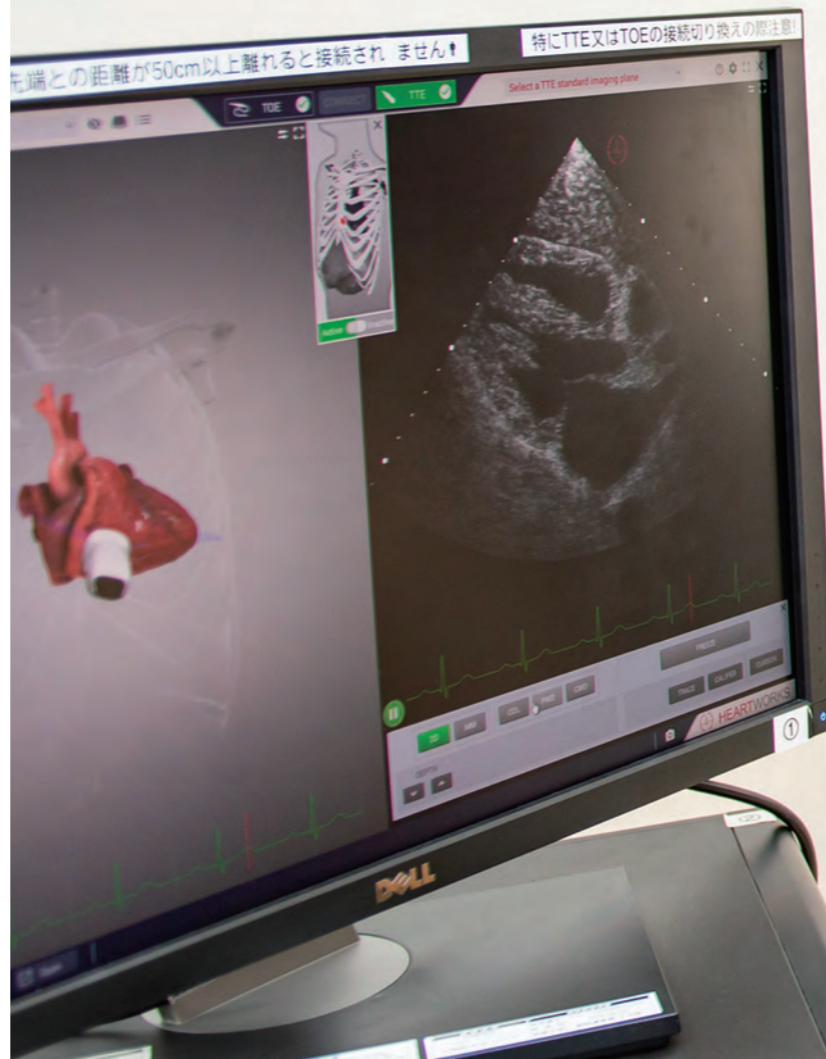


日本列島の南端に位置する琉球大学医学部は、良き医療人を養成しています。2024年の移転に合わせて、国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点形成を目指しています。具体的には、高度医療・研究機能の拡充、地域医療水準の向上、国際研究交流、医療人材育成を行います。このように、今、日本で一番アクティブな医学部です。また、沖縄特有のゆったりとした雰囲気の中で勉強ができる環境は、学習量の多い医学部で学ぶ学生にはたまらなく優しいものがあります。

医学部長
いしだ はじめの
石田 肇



医学部HP



医学科

School of Medicine

高度な学術能力に豊かな人間性を兼ね備え、人々から信頼される医師を育む



医学科は医学に関する専門の知識と技術を修得すると共に高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師や研究者を育成することを目的としています。加えて、沖縄県の自然的・地理的、および歴史的な特性をふまえ、島嶼環境における地域完結型医療の構築に努めます。また、国際性豊かな医学部・医学科として、アジアを主とする諸外国・地域との学術交流を通じ、国際医療に寄与することもめざします。あわせて入学試験も通常の「前期・後期」の他、「推薦Ⅱ(地域枠)」と「2年次特別編入学(学士入学5名)」の計3種類を実施、多様な個性が切磋琢磨しあう環境を提供しています。

Admission Policy - 求める人材像 -

【一般入試】

- 地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人。
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人。
- 責任感が強く、人の身になって考え、行動できる人。
- 常に自己点検を行い、自己啓発ができる人。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人。
- 創造性に富み、物事を理論的に整理・展開できる人。
- 医学を学ぶ基礎学力を有する人。

【推薦入試Ⅱ(地域枠)】

- 沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人。
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人。
- 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人。
- 学習意欲の維持並びに自己学習ができる人。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人。

6年間の学び

1年次	2年次	3年次	4年次	5・6年次
-----	-----	-----	-----	-------

- 医学科は基礎系と臨床系の分野が有機的に関連しつつ教育・診療・研究の体制を整え、6年間の一貫教育を行います。
- 4年次1学期までは基礎医学系、臨床医学系の基礎的知識の修得、実験、実習が主となり、4年次2学期から患者さんを対象とした臨床実習を指導します。
- 6年次の総合試験を経て医師国家試験を受験します。これに合格して初めて医師となりますが、2年間は初期臨床研修が義務づけられています。
- その際、各診療科は他の教育関連病院や地域医療施設と協力して卒業生の研修を指導します。
- 研修後、多くは大学病院や他の病院の臨床医として、さらに研修を重ねます。医学の知識を活かして医系技官等に進む道もあります。
- また、臨床や生命科学、社会医学の発展をめざして研究に取り組む卒業生も多く、そのために大学院博士課程へ進学するのも選択肢のひとつです。

<p>共通教育科目と専門教育を並行して学ぶ</p> <p>共通教育科目と並行して専門教育もスタート。前期は医学概論など医学の基礎知識・最新医学トピックを学びます。早期体験学習を経て後期は、人体構造と機能、神経科学など基礎医学を学びます。</p>	<p>なぜ病気になるのかメカニズムを理解する</p> <p>微生物・免疫学、薬理学などの基礎医学講義・実習を通じ病気が発生するメカニズムを学びます。後期には臓器別・部位別の臨床講義が始まります。医学外国語では論文情報収集・解析法を学びます。</p>	<p>医学全体を俯瞰できる力を養う</p> <p>3年次は臨床医学系講義に加え、離島地域病院実習と12月から基礎教室を中心とした医科学研究に取り組みます。教室で国内外の研究室の紹介を受け、医学研究を深める制度も用意しています。</p>	<p>臨床実習のための共用試験に挑む</p> <p>前期は臨床推論、基本的臨床手技を学びます。衛生学・公衆衛生学など医療学総論を受け、臨床実習実施前に標準評価試験として共用試験を実施します。試験合格者は後期より臨床実習に臨みます。</p>	<p>多様な実習を経て医師国家試験合格を目指す</p> <p>各診療科病院実習、内科などプライマリケアを中心にクリニカルクラークシップに臨み、医師業務に近い実習に参加します。総合試験などに合格し卒業見込みとなれば医師国家試験を受験します。</p>
---	---	--	--	--

保健学科

School of Health Sciences

入学後に行う看護学か検査技術学のコース選択により、地域や国際社会に貢献する保健医療福祉の専門識者へ



Admission Policy - 求める人材像 -

本学科は看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指します。

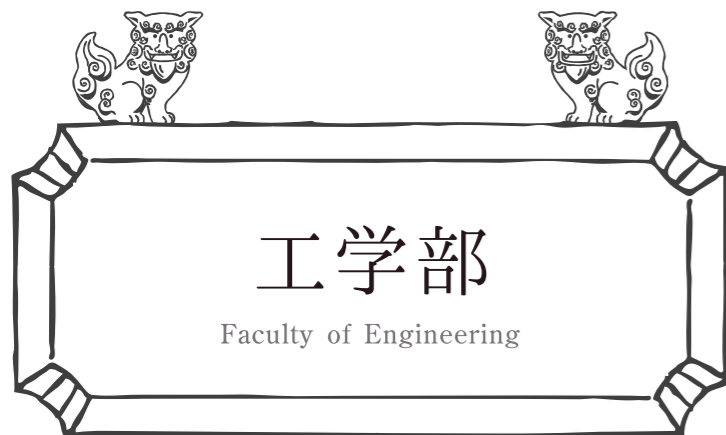
そのため、以下の資質を備えている人を求めています。

- 生命科学、保健・医療・福祉に強い興味と関心を持ち、主体的に学ぶ意欲のある人
- 生命を尊重し、相手の身になって行動できる人
- 自らの目標に向かって自己啓発し、多様な人々と協働ができる人
- 論理的に物事を考え、科学的に解決する意欲のある人

保健学科は、生命尊重の倫理観、科学的根拠に基づく実践力を有する看護師や臨床検査技師などの保健医療福祉の専門職者、および研究者・教育者の育成を目指しています。保健医療福祉の分野が対象とする国際社会や地域、個人には、多様な歴史背景、価値観、健康に関するニーズがあることから、生命倫理だけでなくこれらの問題にも対応できる人材を養成するための専門的な教育も充実させています。さらに保健医療福祉の専門職者に不可欠な生涯にわたる学習ができるよう、学生の自主性、思考力、探求力、問題解決能力を高める取り組みも行っています。入学試験では「前期・後期」のほか、「推薦Ⅱ」、「帰国子女」、「私費外国人」の計4種類を実施し、多彩な人材の獲得にも努めています。このように保健学科では、多種多様な学生がお互いを高め合いながら、日々研鑽を積んでいます。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
保健学 共通 科目	主に大学の共通教育等科目を履修します。	「看護学コース」と「検査技術学コース」にわかれ、それぞれの専門科目を学修しながら病院、地域、学校などで臨床実習を行います。	3・4年次は各自が興味のある研究室で教員の指導を受けて卒業研究に取り組みます。なお保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師の国家試験受験資格の取得の他、養護教諭や健康食品管理士の養成も行っています。	卒業研究に取り組み、後期の発表後は各自、国家試験の準備を本格化する。要望に応じて、教員による国家試験対策授業を実施。
看護学 コース	●第2クォーターに看護学概論、第4クォーターに生活援助看護技術Ⅰおよび生活援助看護技術実習Ⅰを病院で実施。	●症候病態論、小児・母性・成人・高齢期等の看護師に必要な科目を実施。保健師や養護教諭の希望者を対象とする選択科目・教職科目を開始。	●精神・家族看護学、小児・母性・成人・高齢期・在宅看護実践学、緩和ケア論等の看護師に必要な科目を実施。第4クォーターに在宅・母性看護学臨床実習を実施。	●第1・2クォーターに小児・精神・成人急性期・成人慢性期看護学実習等の看護師に必要な臨床実習を実施。第3・4クォーターに助産師、保健師、養護教諭に必要な臨床実習を実施。
検査 技術学 コース		●免疫学、臨床血液学、臨床検査総論、病態生理学、医用電子工学、保健統計学等の臨床検査技師に必要な科目を実施。 ●食品衛生学や健康食品学など、健康食品管理士希望者を対象とする選択科目を実施。	●臨床微生物学、臨床病理学総論、臨床生理学、保健技術学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等の臨床検査技師に必要な科目を実施。	



工学部

Faculty of Engineering

工学科

School of Engineering

機械工学コース

Mechanical Engineering Program

エネルギー環境工学コース

Energy and Environment Program

電気システム工学コース

Electrical and Systems Engineering Program

電子情報通信コース

Electronic and Communication Engineering Program

社会基盤デザインコース

Civil Engineering Program

建築学コース

Architecture and Building Engineering Program

知能情報コース

Computer Science and Intelligent Systems Program



美しいサンゴ礁の海、年中緑溢れ、空気がおいしく、花粉症もない沖縄。情報通信技術の発達で、そんな自然豊かな場所でも、世界中の最新の情報が簡単に手に入ります。天地自然のルールを数学や物理学でモデリングし、そして頭脳を使ってデザインすることで人類社会に活かしてゆくのが工学部の学びです。機械・エネルギー・電気・電子・社会インフラ・建築そして知的情報技術を利用し、世界で活躍できる人を真面目に育成しています。

工学部長
和田 ともひさ
和田 知久



工学部HP

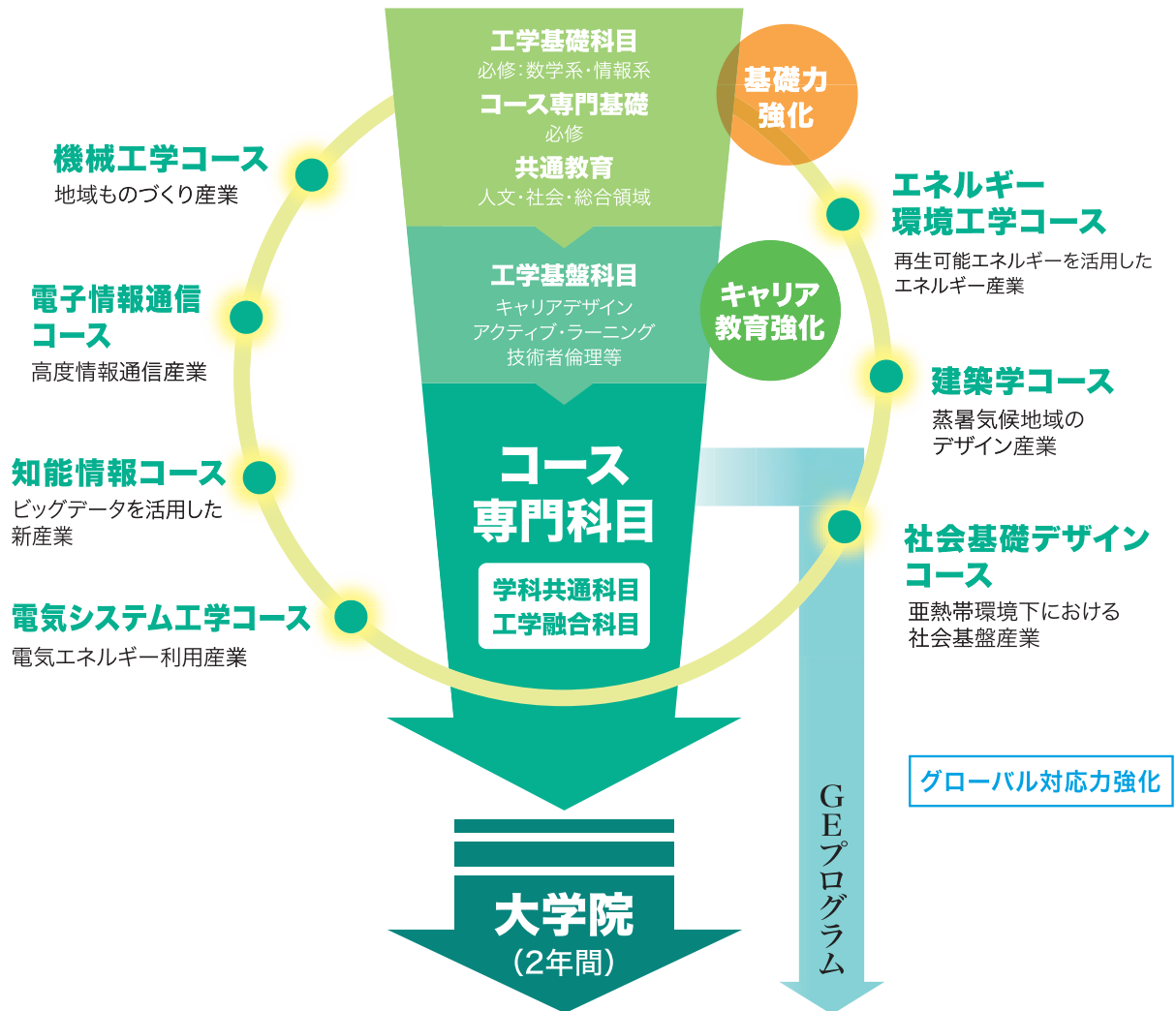


工学科

School of Engineering

新産業や新たな価値の創造に取り組む 7コースと6年間一貫教育のGE*プログラムを設置

*Global Engineer / グローバルエンジニア



**強みを活かした人づくりと研究力・開発力強化で
安心・安全で豊かな地域社会の実現をリード**

Admission Policy - 求める人材像 -

- 工学を学ぶ意欲と目的意識を有し、高等学校で学んだ基礎学力を身に付けたい人
- 修得した知識等を活用するための思考力、判断力、表現力を身に付けている人
- 様々な諸課題を与えられた条件下で最良の結果を得るために主体的に努力できる人

【一般入試(前期日程、後期日程)】

十分な基礎学力を有し、特に数学ならびに物理に優れている人。

【AO入試】

十分な基礎学力を有するとともに、高いコミュニケーション能力をもち、各コースの専門分野に対する学習意欲が強い人。自らの目標に向かって主体的に物事を考え、積極的に活動してきた人。

【推薦入試Ⅱ】

十分な基礎学力を有し、高等学校において優秀な成績を修め、積極的に活動してきた模範的な人。各コースの専門分野への強い向学心を有する人。

機械工学コース

Mechanical Engineering Program



従来の機械システム工学を学びつつ、
次世代の「ものづくり」における
スペシャリストを養成

機械工学コースでは、ものづくりに関する科目を初年次から体系的に学んでいくことが可能で、材料力学、機械材料および加工学、流体力学、熱力学、機械制御などの広範囲におよぶ機械工学の基礎を学び、多様な分野への応用ができるようになっていきます。機械工学はあらゆる産業の基幹となり、就職先からのニーズも高く、卒業生はさまざまな分野で活躍しています。グループワークによる実践的な科目を通じ、コミュニケーション、問題解決、自立した“ものづくり”能力を育むことができます。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学英語 ● 微分積分学 ● 物理学 ● 化学入門 ● 物理学実験 ● キャリアデザイン入門 ● 工学基礎演習 ● 工業数学 ● 情報リテラシー ● 機械製図 ● 工業力学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 確率及び統計 ● プログラミング ● 材料力学 ● 材料加工学 ● 機械材料 ● 流体力学 ● 熱力学 ● 基礎制御工学 ● 計測工学 ● 材料加工学実習 ● 機械基礎演習 ● 機械材料 ● 熱力学 ● 基礎制御工学 	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリアデザイン ● 技術者の倫理 ● インターンシップ ● エンジニアリングデザイン演習 ● 機器設計基礎学 ● 亜熱帯材料学 ● 伝熱工学 ● 機械力学 ● 基礎メカトロニクス ● 機械工学実験 ● 機械設計製図 ● 弾性力学 ● 流体機械学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産権 ● 品質管理 ● 産業社会学原論 ● 技術英語 ● 高分子合成論 ● 航空工学 ● 物質移動工学 ● ロボット工学 ● 卒業研究 ● 高速空気力学

エネルギー環境工学コース

Energy and Environment Program

さまざまな分野のエネルギー環境問題を総合マネジメント力で複合的に解決できる知識と技術を学ぶ



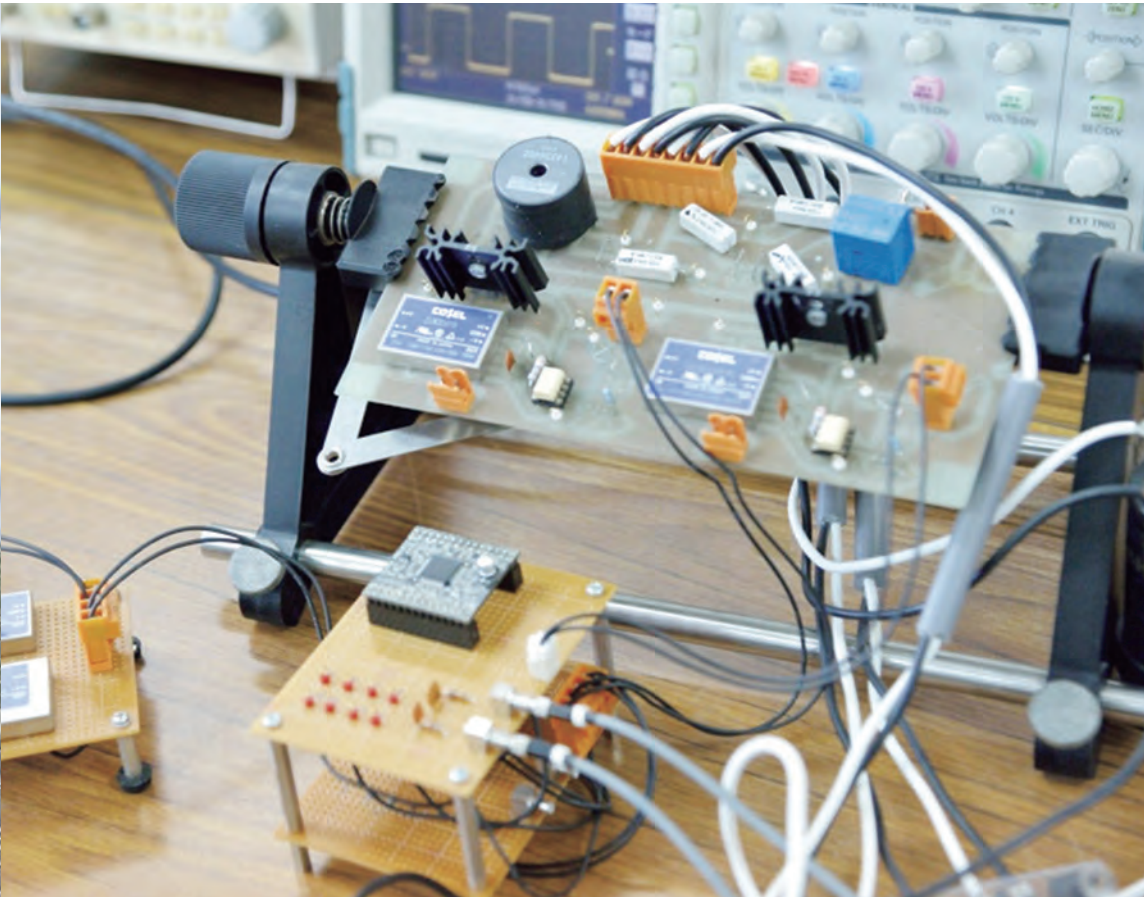
エネルギー環境工学コースは、将来のエネルギー供給や環境保全・共生など、私たちが生きていくうえで重要な課題となっている、いわゆるエネルギー環境問題を機械・電気工学という学問によって解決しようとする人材を育成します。環境に配慮した材料などの専門的知識を駆使し、効率的なエネルギー変換や制御、環境負荷を低減する技術の開発を行い、さまざまな分野での利用へとつなげていける統合マネジメント力とコミュニケーション基礎能力のある技術者にまで成長することをめざします。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学英語 ● 微分積分学 ● 物理学 ● 化学入門 ● 物理学実験 ● 化学実験 ● キャリアデザイン入門 ● 工学基礎演習 ● 工業数学 ● 基礎情報処理 ● 製図基礎 ● 工業力学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 確率及び統計 ● プログラミング ● 流体工学 ● 応用流体工学 ● 熱力学 ● 材料力学 ● エネルギー変換工学 ● エネルギー材料工学 ● 基礎制御工学 ● 環境計測工学 ● エネルギー環境工学実験 ● 電気工学概論 	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリアデザイン ● 技術者の倫理 ● インターンシップ ● エンジニアリングデザイン演習 ● 環境流体工学 ● エネルギー流体機械 ● エネルギー移動工学 ● エネルギー空調工学 ● 腐食防食工学 ● 亜熱帯材料学 ● 環境工学 ● プロジェクトマネジメント工学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産権 ● 品質管理 ● 産業社会学原論 ● 技術英語 ● プロジェクトマネジメント演習 ● 卒業研究

電気システム工学コース

Electrical and Systems Engineering Program



再生可能エネルギーやスマートヘルスケア、私たちの豊かな暮らしを電気システムでもっと豊かに

電気エネルギーは私たちが暮らす社会では必要不可欠です。しかし今、環境問題解決のために電気エネルギーのあり方を変える技術が求められています。電気システム工学コースでは、再生可能エネルギー、新電力システム・スマートグリッド、ロボット、スマートヘルスケアなど社会のニーズに応えられる電気工学や工業数学、システム工学の専門知識を学べます。また幅広い教養と語学を習得できコミュニケーション能力を育みます。電気主任技術者、電気工事士などの資格取得も可能です。

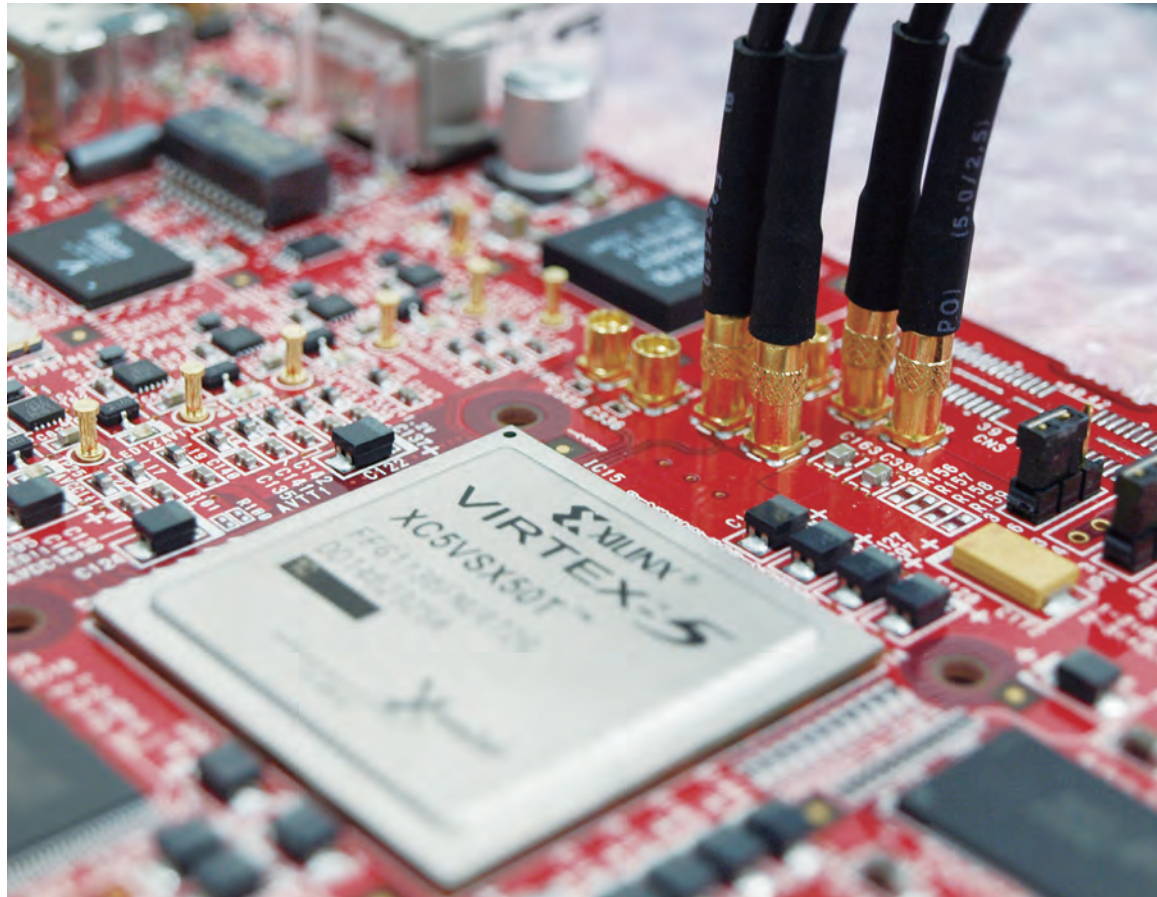
4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語表現法入門 ●工業数学Ⅰ・Ⅱ ●大学英語 ●キャリアデザイン入門 ●英語講義演習中級 ●工学基礎演習 ●微分積分学STⅠ・Ⅱ ●エンジニアリングデザイン基礎 ●物理学Ⅰ ●ベクトル解析 ●化学入門Ⅰ ●電磁気学Ⅰ ●物理学実験 ●電磁気学Ⅱ ●化学実験 ●回路理論Ⅰ ●基礎数学Ⅰ ●プログラミングⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ●工業数学Ⅲ・Ⅳ ●電磁気学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●回路理論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●電気電子計測工学Ⅰ・Ⅱ ●電子回路基礎 ●電気電子基礎実験 ●プログラミングⅡ ●確率及び統計 	<ul style="list-style-type: none"> ●技術者の倫理 ●システム工学 ●エンジニアリングデザイン演習 ●デジタル制御 ●電気電子材料 ●電気電子材料 ●電気機器Ⅰ・Ⅱ ●キャリアデザイン ●電気機器Ⅰ・Ⅱ ●電気電子応用実験 ●パワーエレクトロニクス ●技術英語Ⅰ・Ⅱ ●電力工学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ●地域創生論 ●電力工学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ●国際協力論 ●制御工学 	<ul style="list-style-type: none"> ●セミナーⅠ・Ⅱ ●組込み設計 ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ ●メカトロニクス ●技術英語Ⅲ ●電力工学実験 ●電力系統工学 ●電気機器設計製図 ●電気法規及び施設管理 ●デジタル信号およびフィルタ ●生体計測工学

電子情報通信コース

Electronic and Communication Engineering Program

すべての産業基盤となる技術を
習得・実践し、安全・安心・健康で
豊かな社会を実現する技術者を育成



電子情報通信コースでは、すべての産業を支える基盤技術である電子情報通信技術について学び、高度な専門知識を身につけ、新たな応用分野を切り拓くことができる人材育成をめざしています。持続可能な社会を実現するには、発電、組込、計測、高速大容量の情報通信技術等の開発が今まで以上に重要です。また最近では、さまざまな機器がインターネットに接続され、新しい社会変革が始まっています。当コースでは、これらの技術を幅広く体系的に学べる実践的なカリキュラムを用意しています。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語表現法入門 ●工業数学Ⅰ・Ⅱ ●キャリアデザイン入門 ●工学基礎演習 ●英語講読演習中級 ●工学概論 ●微分積分学STⅠ・Ⅱ ●エンジニアリングデザイン基礎 ●物理学Ⅰ ●ベクトル解析 ●化学入門Ⅰ ●電磁気学Ⅰ ●物理学実験 ●回路理論Ⅰ・Ⅱ ●化学実験 ●回路理論Ⅰ・Ⅱ ●基礎数学Ⅰ ●プログラミングⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ●工業数学Ⅲ・Ⅳ ●電磁気学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●回路理論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●電気電子計測工学Ⅰ・Ⅱ ●電子回路基礎 ●電気電子基礎実験 ●プログラミングⅡ ●確率及び統計 	<ul style="list-style-type: none"> ●技術者の倫理 ●電子回路応用 ●エンジニアリングデザイン演習 ●電子デバイス工学 ●キャリアデザイン ●集積デバイス工学 ●電気電子応用実験 ●電子デバイス材料工学 ●技術英語Ⅰ・Ⅱ ●電子物性工学Ⅰ・Ⅱ ●品質管理 ●電子計算機Ⅰ・Ⅱ ●パルス・デジタル回路 ●通信工学Ⅰ・Ⅱ ●電磁波工学 	<ul style="list-style-type: none"> ●セミナーⅠ・Ⅱ ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ ●技術英語Ⅲ ●電子情報通信実験 ●デジタル信号およびフィルタ ●情報と符号の理論 ●電気通信関係法規 ●知的財産権

社会基盤デザインコース

Civil Engineering Program



自然環境調和型の社会基盤づくりと
海底資源開発・環境問題の解決に貢献できる
専門技術者を育成

社会基盤デザインコースでは、亜熱帯性・島嶼性・海洋性の地理的特性を活かし、自然環境に調和した空港や道路、橋、鉄軌道など公共交通システムや、地域の観光リゾート産業を支える持続可能な社会基盤を創り、気候の変動や新エネルギー開発に関わる海洋・海底資源の開発、防災・減災、環境保全などのグローバルな諸問題解決に貢献できる専門技術者を養成します。持続可能な社会基盤をデザインするために必要な多面的な視点から計画・設計・建設・維持管理までを体系化した専門知識を修得できます。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次	
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ●工学基礎演習 ●キャリアデザイン入門 ●工業数学Ⅰ・Ⅱ ●構造力学Ⅰ及び演習 ●社会システム計画学Ⅰ ●デザイン基礎 ●情報処理解析法 	<ul style="list-style-type: none"> ●工業数学Ⅲ・Ⅳ ●構造力学Ⅱ・Ⅲ ●社会システム計画学Ⅱ ●水理学Ⅰ及び演習、水理学Ⅱ ●土質力学Ⅰ及び演習、土質力学Ⅱ ●建設材料学 ●測量学Ⅰ・Ⅱ ●測量学実習Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域創生論 ●技術者の倫理 ●キャリアデザイン ●エンジニアリングデザイン演習 ●セミナーⅡ ●鋼構造工学 ●海岸工学 ●コンクリート構造工学 ●地盤工学 ●都市地域計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●海底資源工学 ●腐食防食と疲労 ●維持管理工学 ●河川工学 ●減災計画 ●材料工学 ●計算力学 ●デザイン演習A・B ●プロジェクトマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究Ⅰ・Ⅱ ●技術英語Ⅲ

建築学コース

Architecture and Building Engineering Program

人・自然・社会という3つの資源共生を
考慮し、ソーシャルデザイン設計が
できる建築技術者を養成



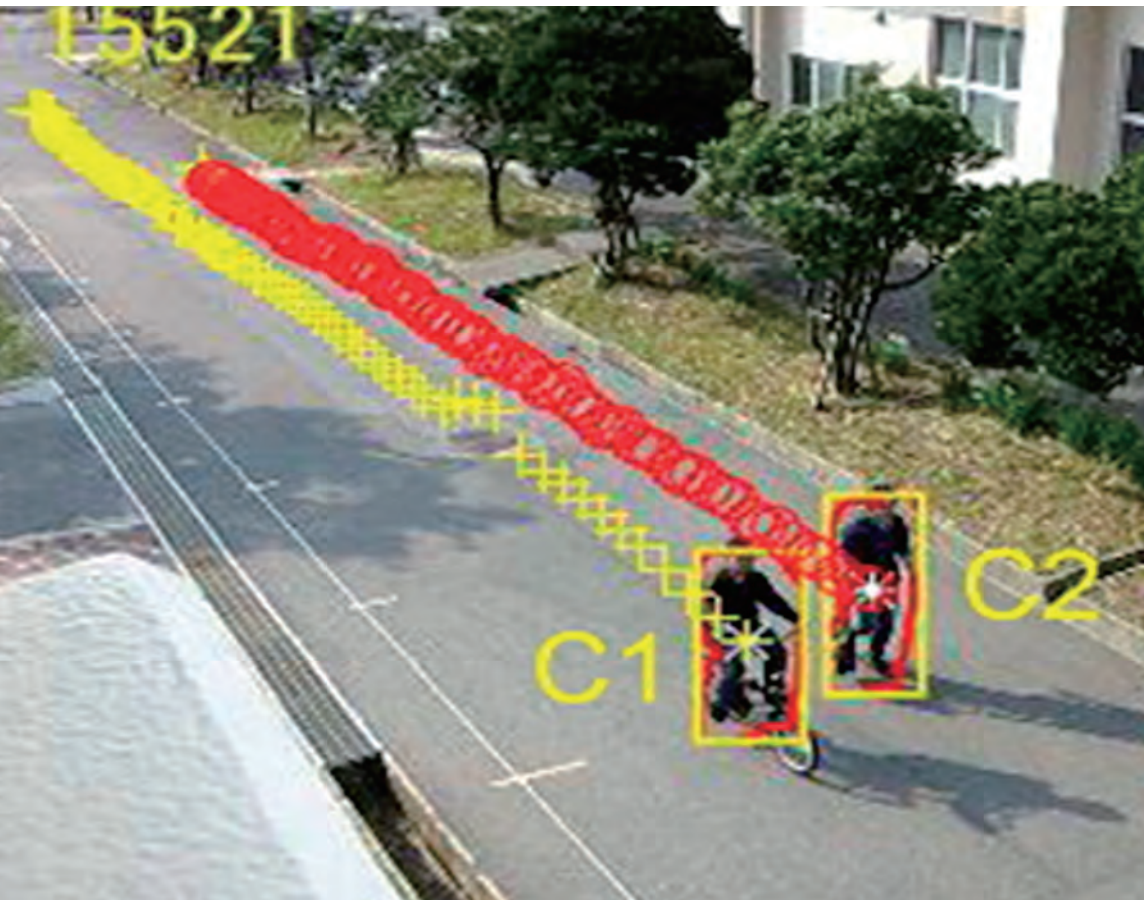
建築学は、人間が安全・安心・豊かに生活するための生活空間を築く知識と技術の体系です。自然災害への理解、風雨が建物に与える影響、建築材料の知識、丈夫な建物をつくる技術が必要です。快適な建物を実現するために、人と環境の関係から空気やエネルギーの流れを考慮します。さらに文化的側面や、都市計画まで包括します。建築学コースでは沖縄の特色ある自然、文化、社会のもとで地域に根差した建築を探求しながらも、普遍的な技術を習得し、国内外で活躍できる建築技術者を養成します。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築学基礎演習 ● 建築構造力学Ⅰ・Ⅱ ● 建築基礎情報処理 ● 建築デザイン基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築設計製図Ⅰ・Ⅱ ● 建築計画概論 ● 都市計画 ● 建築材料学 ● 構造設計Ⅰ ● 建築史概論 ● 住空間計画 ● 建築環境工学Ⅰ ● 防災工学概論 ● 環境材料学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築設備計画 ● 建築環境工学Ⅱ ● 構造設計Ⅱ ● 建築環境工学実験 ● 建築生産 ● 建築法規 ● 建築材料構造実験 ● 建築設計製図Ⅲ・Ⅳ ● 居住地計画 ● 建築構造力学Ⅲ ● 都市デザイン演習 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築技術者倫理 ● 環境情報システム ● 卒業設計または卒業研究Ⅰ・Ⅱ

知能情報コース

Computer Science and Intelligent Systems Program



より良い情報社会実現のために
高度な技術と柔軟な発想力・温かな
人間性を備えた人材を育成

「情報通信産業の高度化・多様化」が沖縄県策定の「21世紀ビジョン」構想実現における大きな原動力として期待されています。本コースでは、①コンピュータシステム②コンピュータ応用(ロボット・人工知能等)③情報通信の3分野に加え、④データサイエンス(ビッグデータ収集分析等)⑤ネットワークセキュリティという新しい2つの分野の研究環境も充実しています。世界的競争力のあるイノベーションを創出できる技術者、高い技術力、柔軟な創造力と温かな人格を備えた人材を育成します。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学英語 ● 離散数学 ● 微積分学ST-Ⅰ・Ⅱ ● 健康運動 ● 物理学Ⅰ・Ⅱ ● 教養領域1 ● キャリアデザイン入門 ● 総合領域1 ● 工学基礎演習 ● 日本語 ● 技術者の倫理 ● 表現法入門 ● 工業数学Ⅰ・Ⅱ ● 英語科目1 ● プログラミングⅠ・Ⅱ ● プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ● アルゴリズムとデータ構造 ● ソフトウェア開発演習Ⅰ ● 情報ネットワークⅠ ● 知能情報実験Ⅰ・Ⅱ ● コンピュータシステム ● 情報ネットワークⅡ ● データサイエンス基礎 ● 言語理論とオートマトン ● プロジェクトデザイン ● 教養領域2 ● オペレーティングシステム ● 総合領域2 ● コンピューターキテクチャ ● 英語科目2 ● データベースシステム ● 第2外国語Ⅰ・Ⅱ ● 人工知能 	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリアデザイン ● 情報理論 ● 画像処理 ● エンジニアリングデザイン演習 ● ネットワークセキュリティ ● 知能情報実験Ⅰ ● 知能ロボット ● インターンシップⅠ・Ⅱ ● データマイニング ● ソフトウェア工学 ● 数理計画とアルゴリズム ● デジタルシステム設計 ● ソフトウェア開発演習Ⅲ ● インターネットアーキテクチャ ● 工学融合導入科目 ● 機械学習 ● 工学総合科目 ● 情報特別講義Ⅰ ● 教養領域3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ● セミナーⅠ・Ⅱ ● 卒業研究Ⅰ・Ⅱ ● 総合領域3 ● 産業社会学原論Ⅰ ● ソフトウェア工学



農学部

Faculty of Agriculture

亜熱帯地域農学科

Department of Subtropical Agro-Production Sciences

- 農林経済学コース
- 植物開発学コース
- 循環畜産学コース
- 農林共生学コース

亜熱帯農林環境科学科

Department of Subtropical Agro-Environmental Sciences

- 植物機能学コース
- 動物機能学コース
- 森林環境学コース
- 生態環境科学コース

地域農業工学科

Department of Regional Agricultural Engineering

- バイオシステム工学コース
- 地域環境工学コース

亜熱帯生物資源科学科

Department of Bioscience and Biotechnology

- 生物機能開発学コース
- 食品機能科学コース
- 発酵・生命科学コース
- 健康栄養科学コース



農学部長
わだ こうじ
和田 浩二

日本で唯一亜熱帯地域に位置する琉球大学農学部！「食料生産」、「環境保全」、「エネルギー」、「生物資源」、そして「健康の保持増進」に関わる多種多様な課題について、その地域特性を最大限に活かして、意欲的に教育と研究を行っています。琉球大学農学部では、亜熱帯の沖縄でしかできない「農学」、総合科学としての「農学」、そしてグローバルな「農学」に興味や関心のある学生を待っています！！



農学部HP



亜熱帯地域農学科

Department of Subtropical Agro-Production Sciences

国際的視点から地域の農林水産業の振興を促す人材や農業と地域社会の共生の仕組みが構築できる人材を育成



農林経済学コース

持続的食料自給システム、都市と農山村との循環型社会、農業政策学、農産物流通学、森林政策学、森林環境経済学、アグリビジネス論、森林ツーリズム論、森林経営計画学など。

植物開発学コース

亜熱帯地域に適応した植物育種の展開、未利用植物資源の開発および持続的生産技術の構築、基礎遺伝学、熱帯果樹園芸学、蔬菜園芸学、鑑賞植物園芸学、植物開発学演習、園芸学実験など。

循環畜産学コース

家畜生産を通じた地域資源循環型農業、熱帯草地学、熱帯畜産論、家畜飼料学、家畜環境管理学、家畜行動管理学、家畜衛生管理学実験など。

農林共生学コース

フィールドを活用した動植物生産、人間と動植物の多面的関係を通じた新たな農林共生、緑化修景施工論、園芸福祉学概論、作物栽培環境学、畜産共生技術論、畜産周辺関係学、森林人間文化論、国際森林・林業論、森林情報計測学など。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	教養・基礎 ●学部共通科目 ●共通教育科目 ●専門基礎教育科目 ●食農資源経済学	学科基礎 ●農林経営経済学 ●植物開発学 ●循環畜産学 ●動植物人間関係学 ●フィールド実習 ●国際森林・林業論	農林経済学コース ●農業経営学 ●農産物流通学 ●森林政策学 ●農村調査実習 ●森林政策学実習 ●農業経営学実習 ●森林経営計画学演習	専門分野配属 ●卒業研究
			植物開発学コース ●蔬菜園芸学 ●植物育種学 ●園芸学概論 ●鑑賞植物園芸学 ●種苗生産学 ●熱帯果樹園芸学 ●園芸学実験	
			循環畜産学コース ●家畜環境管理学 ●家畜衛生学 ●家畜行動管理学 ●家畜微生物学 ●草地生産管理学 ●熱帯畜産論 ●家畜繁殖学 ●熱帯草地学	
			農林共生学コース ●緑化修景施工論 ●家畜福祉論 ●畜産周辺関係学 ●畜産共生技術論 ●森林人間文化論 ●森林情報計測学 ●農業実践論	

Admission Policy - 求める人材像 -

沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身に付け、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。

- 国際的な視点で地域農林畜産業の振興に貢献したい人
- 地域生物資源の循環システムに基づく持続的農業生産に取り組みたい人
- 農業と地域社会との共生の仕組みを考えたい人

【一般入試では特に次の学生を求めます】

- 農学を学ぶ基礎的な知識・技能を習得した人

【推薦入試では特に次の学生を求めます】

- 農林畜産業の分野に関心があり、社会(または地域社会)に貢献する強い意志を持つ人

亜熱帯農林環境科学科

Department of Subtropical Agro-Environmental Sciences

植物と動物の生産や環境に関する分野で活躍する人材、
琉球弧や地球レベルの生態系保全に貢献できる人材を育成



植物機能学コース

作物の生理・生態的特性を基礎にした効率的なバイオマス生産と利用、バイオ燃料の生産、沖縄型植物工場の開発、植物に発生する各種病害の発生・生態と生物的防除法について。

動物機能学コース

熱帯・亜熱帯で飼われている動物を対象に、環境との相互作用の視点から動物の遺伝育種・繁殖・生理・形態などの特性解明と関連する技術の開発について。

森林環境学コース

森林生態系や都市の緑の保全と森林資源の利用、自然災害の軽減を考慮した森林造成、森林や樹木の保護、流域管理の理論と実践について。

生態環境科学コース

昆虫を主とする野生動物と土壌環境の特性・機能の解明と利用技術について。

Admission Policy - 求める人材像 -

沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身に付け、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。

- 生物資源・環境の機能や特性の解明に興味をもつ人
- 生物生産と自然環境との調和を目指す人
- 生物多様性の理解を通じて環境保全に貢献したい人

【一般入試では特に次の学生を求めます】

- 農学を学ぶ基礎的な知識・技能を習得した人

【推薦入試では特に次の学生を求めます】

- 生物生産・資源や自然環境の分野に関心があり、社会(または地域社会)に貢献する強い意志を持つ人

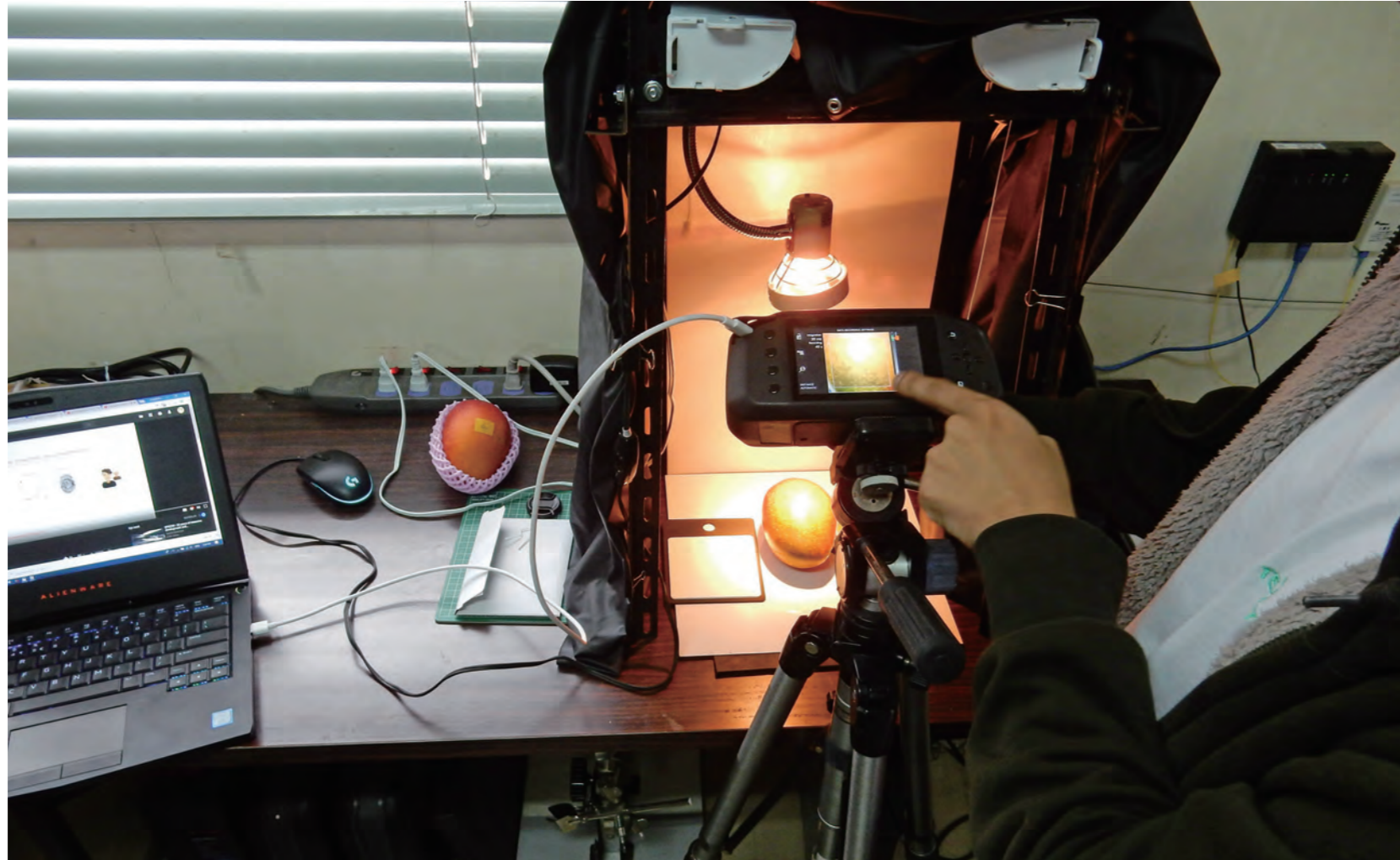
4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ●主に共通教育科目を履修し、英語、第二外国語、一般教養などの幅広い教養と知識を修得する。あわせて農学部必修科目を2科目受講する。 ●科目学修例/「食・農・環境概論」では農学部全学科の教員によるオムニバス形式の講義を通じて、学部が行っている研究を紹介する。「基礎フィールド実習」では農業、林業、畜産業に関する実習を行い、農学の基礎を幅広く体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農学部必修科目を6科目履修する。あわせて各コースの教員による専門科目の概論(5科目)を受講する。 ●科目学修例/「生物統計学」ではデータ解析に必要な統計的手法を習得する。選択必修科目の「フィールド実習I」ではフィールドにおける植物栽培・管理を対象とする基礎的実習を行う。その他、所属コースの必修科目を履修し、専門知識を修得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農学部必修科目4科目を履修する。 ●科目学修例/「保全生物学」では新しい応用生物学の基本概念を解説し、希少生物の保護や外来種など、環境問題の科学的解決の方法論を学修する。「キャリア・ディベロップメント」では就職活動に関する講義・演習を行う。外国文献講読I・IIでは研究に必要な外国語文献などの講読を行う。その他、所属コースの必修科目を履修し、専門知識を修得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目「卒業論文I・II」では各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を立案して実験・調査を進め、論文を作成する。卒業論文の研究成果は学会形式で発表し、プレゼンテーションに関連する技術の修得や口頭発表の修練を行う。

地域農業工学科

Department of Regional Agricultural Engineering

持続可能な低炭素型社会の実現をめざして
食糧資源・エネルギー・環境が調和した



バイオシステム工学コース

機械工学や情報工学を応用、農業の生産・流通・食品加工の効率化を図ると共に、亜熱帯・島嶼環境に適した持続的生産システムとバイオマスなどの再生可能エネルギーシステムの構築に関する教育・研究を行います。

地域環境工学コース

JABEE・日本技術者教育認定機構(JABEE)プログラム/水・土・大気の基本的な性質の理解を土台に、土木・環境工学を活用して環境調和型の基盤システムや農地を整備し、美しい景観と土砂災害のない安心かつ安全な農村の創成と保全に関する教育・研究を行います。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 知性と知識を備えた21世紀型市民の育成に必要な共通教育、グローバル時代にふさわしい専門的知識人に必要な情報処理能力、自分の考えを整理して的確に伝えるコミュニケーション能力などを修得する。さらに農学を広く理解し、実際に体感する科目を修得する。 ● 主な履修科目は共通教育科目、専門基礎教育科目(人文系・社会系・自然系など～4年間で履修)、農学部共通科目(食・農・環境概論など)、基礎フィールド実習など。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水利環境学、農村・農地環境概論、農村基盤施設学、農業生産システム論、ポストハーベストテクノロジーなど、地域農業工学などの共通専門科目を学び、「バイオシステム工学コース」または「地域環境工学コース」のいずれかを選ぶ。さらに専門学修の基本科目として、工学の力学、応用数学、応用力学、環境情報学、技術者倫理、地域農業工学などの演習がある。 ● 後期から所属する「バイオシステム工学コース」では農業エネルギー工学などを、「地域環境工学コース」では測量学・実習、数学・力学演習、情報処理学、水理学、農村農地整備学、土地環境保全学、土の物理学、製図などを学修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学科共通専門科目としてキャリアデベロップメント、キャリア実習、環境情報学、外国文献講読などを学ぶ。 ● 「バイオシステム工学コース」では農業環境計測工学、バイオマス工学、生物資源プロセス工学、農業情報工学、農業エネルギー工学、生物材料工学、農業システム工学、バイオシステム工学実験などを、「地域環境工学コース」では材料・コンクリート工学、水文・気象学、施設工学、水資源工学、造構学総合演習、利工学総合演習、防災工学総合演習、農業農村整備の実際、環境地質学、農地防災工学、土質力学、応用測量学、地域環境実験などに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業論文(学科共通専門科目)に取り組み、総合的な能力を修得する。「バイオシステム工学コース」では基礎生物生産システム設計学などを学修する。

Admission Policy - 求める人材像 -

沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身に付け、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。

- 農業・農村の環境整備とそれらが発揮する多面的機能の維持管理に関心がある人
- 農業生産から流通・加工に係わる食料システムの構築に興味がある人
- 自然エネルギーを活用した循環型地域システムを考えたい人

【一般入試では特に次の学生を求めます】

- 農学を学ぶ基礎的な知識・技能を習得した人

【推薦入試では特に次の学生を求めます】

- 農業・農村の環境や農業生産システムに関心があり、社会(または地域社会)に貢献する強い意志を持つ人

亜熱帯生物資源科学科

Department of Bioscience and Biotechnology

人類の豊かで健康的な生活への貢献をめざし、亜熱帯の沖縄でしかできない学びに取り組む



生物機能開発学コース

沖縄ならではの亜熱帯生物資源から有用な生理活性物質の探索を行うと共に、それらを分子・細胞・生体の各レベルで追及し、人類に役立つ機能性素材の開発に向けた専門知識を修得します。

食品機能科学コース

生命のエネルギー源である食品には、味や香りが与える満足感などの価値に加え、生体の防御や恒常性を保つ役割もあります。そのような食品の機能を健康の維持・増進の観点から研究し、新たな食品素材の開発を行うと共に、人々の生活の質の向上に役立つ専門知識を修得します。

発酵・生命科学コース

発酵とは微生物によって有用な物質を生産することであり、発酵食品や調味料、医薬品はもちろん、生活用品の多くも発酵によって造られています。その原理を学びつつ、沖縄ならではの亜熱帯生物資源を活かした発酵食品や有用物質の開発、微生物の機能と生命現象の解析と応用に関する専門知識を修得します。

健康栄養科学コース

琉球大学の栄養士養成は1968年にはじまり、多くの優れた栄養士と栄養教諭を輩出してきました。本コースでは地域社会に貢献するための人材を養成しています。沖縄県の健康課題の解決、食育の推進、食と農の融合を目指した栄養に関する研究によって高度な専門知識と技能を修得します。

4年間の学び

	1年次	2年次	3年次	4年次
主な授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い教養を身につける共通教育科目を修得すると共に、学部共通科目によって亜熱帯農学の理念を修得する。あわせて学科の理念と教育・研究の内容を幅広く知るための学科共通科目を履修する。 ●共通教育科目では教養・総合領域の健康運動、人文、社会、自然などに広がる琉大特色科目を、基幹領域では情報科学演習、英語や他の外国語を学ぶ。 ●専門基礎教育では化学、生物学、物理学などを学ぶと共に、それらの実験に取り組む。学部共通科目では食・農・環境概論、基礎フィールド実習などに取り組む。 ●学科共通科目では亜熱帯生物資源科学総論、生物化学などを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年次に続き、幅広い教養を身につける共通教育科目を履修すると共に、学科基礎科目によって3年次に配属するコースでの専門科目を学ぶための基礎を履修する。 ●共通教育科目では1年次と同様の科目を履修する。 ●学科共通科目では有機化学、物理化学、亜熱帯生物資源科学演習、亜熱帯生物資源科学実験などに取り組む。 ●専門教育科目では分子生物学、生命科学、食品科学、微生物機能学、食品分析学、食品生物学、生理活性物質学、糖鎖生命科学、天然物化学、栄養生化学などを履修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各コースに所属し、専門科目を履修する。 ●生物機能開発学コースでは遺伝子工学、薬理学、生物工学、健康長寿科学、植物分子生理学、生物機能開発学実験などに取り組む。 ●食品機能科学コースでは生体高分子化学、食品安全化学、菌類学、食品機能化学、栄養生理学、食品衛生学、免疫・臨床化学、食品機能科学実験などに取り組む。 ●発酵・生命科学コースでは応用酵素学、発酵化学、タンパク質工学、泡盛醸造学、生命情報科学、発酵・生命科学実験、泡盛醸造学実験などに取り組む。 ●その他、外国文献講読、キャリアディベロップメント、キャリア実習などの学科共通科目も履修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎から応用まで、修得した専門分野を自ら総括する。具体的には各研究室にわかれて卒業論文研究を行い、亜熱帯生物資源の活用に関する実験技術を修得すると共に、問題解決能力などを身につける。 ●研究に必要な情報を収集・整理・活用するため、生物機能開発学コースでは生物機能開発学セミナーに、食品機能科学コースでは食品機能科学セミナーに、発酵・生命科学コースでは発酵生命科学セミナーに取り組む。

●健康栄養科学コースは卒業までの教育課程に沿ってコース教育が1年次から実施されます。本コースの専門科目では栄養学(1年次)、ライフステージ栄養学(2年次)、臨床栄養学(3年次)、公衆栄養学(4年次)などに取り組む。

Admission Policy - 求める人材像 -

沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身に付け、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。

- 生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人
- 健康の保持増進に有効な機能性食品の開発に興味を持つ人
- 発酵科学を通じて食品・医薬産業に貢献したい人

健康栄養科学コースでは現代社会の抱える様々な健康をめぐる諸問題に向き合い、栄養学・食育を通じて社会発展に寄与する意欲のある次のような人を求めています。

- 栄養学・食育を通じて地域社会の健康の保持増進に貢献したい人

【一般入試では特に次の学生を求めます】

- 農学を学ぶ基礎的な知識・技能を習得した人

【推薦入試では特に次の学生を求めます】
(健康栄養科学コースを除く)

- 亜熱帯生物資源の機能開発や高度利用に関心があり、社会(または地域社会)に貢献する強い意志を持つ人

【推薦入試では特に次の学生を求めます】
(健康栄養科学コース)

- 健康や栄養学・食育に関心があり、社会(または地域社会)に貢献する強い意志を持つ人

琉大を ○○して みた!



那覇空港から琉大まで
走ってみた



球陽橋の学長を
ドローンで撮影してみた



大学内を走ってみた



学食行ってみた

CAMPUS LIFE

SCHEDULE



CLUB & CIRCLE

[文化系]

- モダンジャズオーケストラ
- 漫画研究会
- ロック同好会
- 生物クラブ
- JAZZ研究会
- 茶道研究クラブ
- 放送クラブ
- 吹奏楽部
- 法政エイサー
- 作物園芸サークル
- 社会科学研究会
- 落語研究会
- 学生新聞会
- 琉球芸能研究クラブ
- 映画研究会
- 劇団テトラ(演劇部)
- 管弦楽団
- スタジオジャグリ
- フォーククラブ
- 八重山芸能研究会
- 自動車部 他

医学部文化系

- 混声合唱団
- 地域医療研究会
- 熱帯医学研究会
- 中国医学研究会

[体育系]

- 合気道部
- プロレス同好会
- 剣道部
- 琉大柔道部
- 空手道部
- 体操部
- ハンドボール部(男子)
- ハンドボール部(女子)
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バレー同好会
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- Ryukies (フットサル)
- 硬式庭球部
- ラクロス部
- 男女バドミントン部
- 硬式野球部
- ラグビー部
- アメリカンフットボール部
- 男子アイスホッケー部
- 女子アイスホッケー部
- 弓道部
- スポーツ同好会
- 陸上競技部
- 水泳部
- ソフトボール部
- テニスサークル ACTY
- りゅうある (アルティメットサークル)
- シュガーボーイズ(バスケット)
- ウインドサーフィン部
- ソフトテニス部
- R-family(ダンス)
- 剣道部
- 卓球部
- クライミングサークル
- サイリウムダンスサークル
- 情熱体育
- フィッシング部
- 馬術部 他

医学部体育系

- 準硬式野球部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- バドミントン部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 空手道部
- 剣道部
- サッカー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- ボードセイリング部
- 弓道部
- 水泳部
- ハンドボール部
- ラグビー部
- 陸上競技部



A 大学本部棟



B 大学会館



C グローバル教育支援機構



D 人文社会学部



D 国際地域創造学部

上原キャンパス

医学部 入口

附属病院 入口

医学部

基礎講義実習棟 保健学科棟 管理棟

基礎研究棟 附属図書館医学部分館

RI実験施設棟 臨床研究棟 臨床講義棟

附属動物実験施設棟 附属病院

バス停 (琉大附属病院前)

中央設備機械室

高エネルギー・高圧治療施設棟

リニアク診療施設棟

受水槽

おきなわクリニカルシミュレーションセンター

納骨堂

がじゅまる会館

解剖法医棟

体育館

沖縄自動車道

至 宜野湾我如古十字路

至 北中城

至 首里

千原キャンパス

宜野湾口 (北口)

西原口 (南口)

中城口 (東口)

農学部

工学部

理学部

教育学部

人文社会学部

国際地域創造学部

千原池

球陽橋

風樹館

熱帯生物圏研究センター (分子生命科学研究施設)

亜熱帯フィールド科学 教育研究センター

畜産施設

園芸用 ガラス室

環境安全施設

圃場

生協 北食堂 売店 沖縄銀行ATM

亜熱帯島嶼科学 拠点研究棟

研究基盤センター・極低温施設

総合情報処理センター

RI施設

地域連携推進機構 産学官連携部門

1号館 2号館 3号館 4号館

学生寮 (千原寮)

課外活動共用施設

テニスコート

弓道場

合宿研修施設

保健管理センター

体育教官棟

野球場

相撲場

400Mトラック

バス停 (琉大北口)

バス停 (琉大東口)

バス停 (琉大法学部前)

バス停 (琉大附属小学校)

モスバーガー

研究者交流施設 50周年記念館

国際交流会館

ウェルカムプラザ

教育実践棟

放送大学 学習センター 学習推進部門 生センター

文系総合研究棟 法務研究科

附属図書館

附属小学校

附属中学校

附属図書館

理系複合棟 (熱帯生物圏研究センター・西原研究施設) (研究基盤センター・機器分析施設)

生協 中央食堂・売店 琉球銀行・沖縄銀行ATM

日本郵便 ATM

共通教育棟

サッカー・ラグビー場

プール

第1体育館

第2体育館

CAMPUS MAP

大学内を体感しよう!



F 理学部



G 工学部



H 農学部



I 医学部



施設紹介
1
附属図書館

附属図書館は沖縄関係の資料が充実しており、本学の学生と教員だけでなく、県内外の多くの研究者にも利用されています。また、国連寄託図書館及びEU情報センターに指定されており、国際資料も数多く所蔵しています。蔵書は約100万冊あり、毎年1万冊以上の資料を購入しています。学修や研究に必要な情報を蓄積・提供するため、図書や雑誌だけでなく、データベースや電子ジャーナル等の学術情報基盤整備に努めており、附属図書館のホームページからも情報を効率よく検索できます。



沖縄・国際関連コンテンツの充実をはじめ、
琉球大学の独自性を色濃くあらわす
「知の殿堂」

主なサービス・機能

● 閲覧・貸出

年末年始や大学入試日を除いてほぼ毎日開館しています。館内は貴重資料室等の一部を除き入室や閲覧は自由で貸出もしています。

● 図書購入

学生や教職員からのリクエストを受け、必要な図書を購入しています。

● レファレンスサービス

サービスカウンターは世界の図書館ネットワークの窓口です。所蔵資料の利用案内をはじめ、さまざまな学術情報を活用するための相談に応じています。

● 琉球大学学術リポジトリ

本学の学術成果の一部をインターネットを通じて公開しています。本学でどのような研究が行われているのかご覧ください。

● ILL(図書館間相互貸借)

当館が所蔵していない図書を他の図書館から取り寄せたり、論文等の複製(コピー)を取り寄せるサービスです。

● 図書館利用講習会

学修に必要な情報の調べ方について、各種講習会を開催しています。講義の一環としても活用されています。

● ラーニング・コモンズ

パソコンエリア、グループ学修エリア、プレゼンテーションエリアのほか、学修相談窓口があり、学び、考え、議論し、発表する場として活用できます。

● 沖縄関連コンテンツの充実

古文書の内容をわかりやすく紹介したデジタルアーカイブや、沖縄関係に特化した文献情報データベースなど、沖縄関連のコンテンツを充実させています。学内外の沖縄関連データベースが横断検索できる「沖縄情報統合検索システム iXio(イクシオ)」は、レポート作成にフル活用できます。

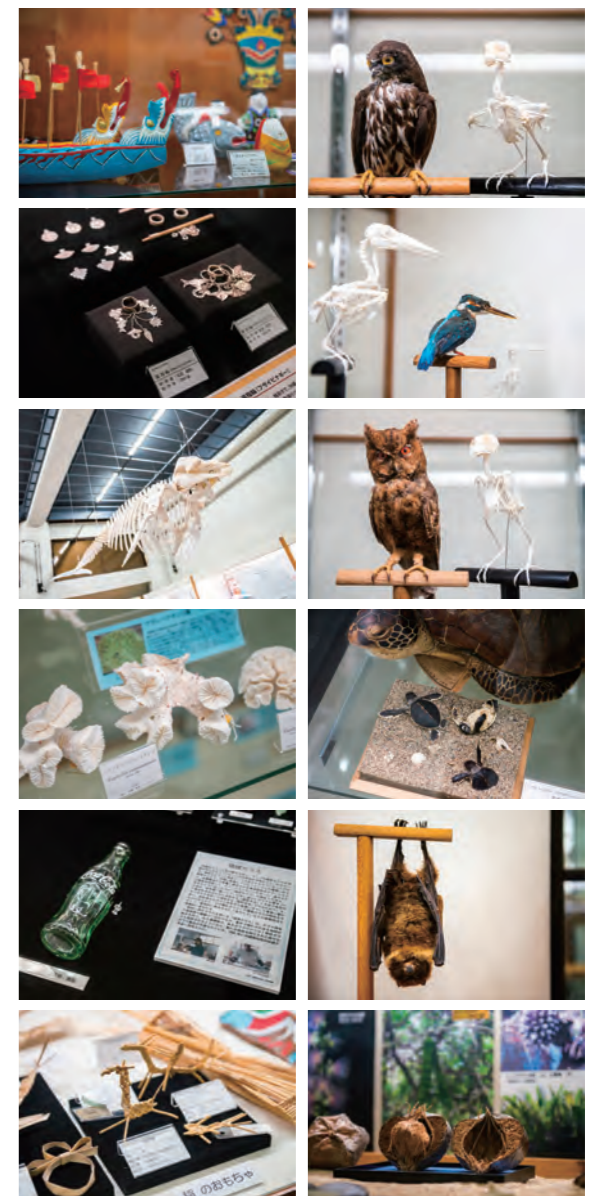




上段は文化系展示室、中段下段は自然系展示室



1階の常設展示室では、沖縄の自然や文化を特徴づける約4000点の資料が展示されています。展示資料の中には、世界で最初に発見されたイリオモテヤマネコの標本や首里城に設置されていた日時計の破片など、貴重な資料が数多く含まれています。また、すぐ隣には「学校ビオトープ見本園」が設置されており、様々な昆虫や植物、島ヤギなどが観察できます。



施設紹介
2
風樹館

沖縄の自然と文化をテーマに
約20万点の学術資料を収蔵

琉球大学には附属の博物館があります。農学部のごく近くにあるレンガ造りの丸い建物が博物館で、通称「風樹館」と言います。ここでは、約20万点の資料が収蔵されており、学内外の研究や教育に活用されています。また、地域の学校教育や生涯学習への教育支援活動なども行っており、地域に開かれた大学博物館を目指しています。



施設紹介
3
学内施設



中央食堂・生協中央店

カフェテリアスタイルの中央食堂は7時50分にオープンし、朝食にも対応しています。沖縄そばをはじめ、沖縄ならではのメニューも揃っています。2階の生協中央店では、お弁当やパンを揃えている他、文具やパソコン、日用品も購入できます。講義で使用する書籍や新刊書籍もあり、自動車教習所や航空券、海外旅行の申し込みも行えます。



北食堂

工学部と農学部と近くにあるカフェテリアスタイルの食堂。また、小さなコンビニもあり、パンやお弁当も取り揃っています。

保健管理センター

学生定期健康診断を実施する他、ケガや病気の応急処置も行います。カウンセリング・ルームでは学業や進路、心身の健康、人間関係など、さまざまな悩みに関して、専門のカウンセラーが対応しています。



共通教育棟

主に1・2年次の学生のみなさんがよく活用する場所のひとつです。共通教育科目の授業を実施しています。

研究者交流施設・50周年記念会館

開学50周年記念事業において建設されました。多目的室、交流ラウンジ、展示室及び学外からの研究者等のための宿泊室等を有する施設です。



地域創生総合研究棟

平成26年11月に完成した、地域連携推進機構産学官連携部門、島嶼防災研究センター、理工学部研究科工学系からなる研究拠点施設です。



地域国際学習センター

地域連携推進機構地域連携企画室・生涯学習推進部門と、グローバル教育支援機構国際教育支援部門(国際教育センター)留学生ユニットが活動している施設です。

施設紹介
4
学外施設



瀬底研究施設



西表研究施設

熱帯生物園研究センター

日本で唯一、熱帯・亜熱帯環境下にある共同研究拠点。西表島と瀬底島にある各研究施設と千原キャンパス内のふたつの研究施設が連携し、地域の生物の生態的特性や多様性、人の健康・環境との相互作用などの解明を進めています。瀬底研究施設には、サンゴ礁生物研究の国際的拠点となる共同研究施設を整備し、24時間体制で研究できる宿泊室も完備しています。



亜熱帯フィールド科学教育研究センター
与那フィールド

日本の大学の中で唯一、亜熱帯に位置する大学演習林。他の大学や研究機関とも連携し「日本最南端の森林データ」を提供しています。農学部を主に、学生がフィールドワークや実習で活用しています。

広い視野やグローバルな思考力を育む海外留学に向けて世界各国・地域の大学等と国際交流協定を締結しています

海外留学・交流協定大学等

学生の海外留学を積極的に支援しています

●琉球大学では40カ国・地域の大学等と国際交流協定を締結して、充実した海外留学制度を整えるとともに、経済的な支援として、大学独自の奨学金や支援金により海外留学をサポートしています。また、バラエティ豊かなアジア・太平洋島嶼地域の諸大学に留学できるのも琉球大学ならではの強みです。

琉球大学短期派遣(留学) プログラム本学から海外への留学

- 琉球大学と海外の大学との学生交流協定(覚書)に基づき、琉球大学に在学した状態で海外の大学へ留学するプログラムです(下記参照)。
- 派遣期間は1年以内(学期単位)です。
- 留学先の大学で取得した単位は、所属学部承認が得られれば、卒業要件の単位として認定されます。
- 留学先の大学の検定料・入学料・授業料は不徴収となります。但し留学期間中も琉球大学に在学している状態にあるため、本学の授業料は納入する必要があります。
- 留学先での経済的支援として、日本学生支援機構または琉球大学後援財団から奨学金(月額5.5万円から8万円)が受給できます(選考有)。
- 大学独自の奨学金(8万円から12万円)や留学のための準備金、短期研修へ参加するための費用の一部を支援する制度があります(いずれも選考有)。
- 実践活動(インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク、PBLなど「実社会と接点」を持つ活動)を組み合わせ、官民協働海外留学支援制度〜トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム〜(月額12万円または16万円の奨学金、留学準備金及び授業料等の一部を支援)にも応募可能です(ただし、所定の家計基準を超える学生の奨学金は月額6万円です)。
- 国際教育課の担当職員が、海外の学生交流協定校への留学をはじめとする、海外留学全般の相談に応じます。

数多くの留学生を受け入れることで学内での国際交流も活発です

琉球大学は「国際性豊かな特色ある大学」をめざし、国際的に開かれた大学として、各国から多くの留学生を受け入れています。
2019年3月11日現在、49の国と地域から294名の留学生を受け入れています。

国際交流協定締結大学(派遣留学対象大学)

(2019年3月31日現在)



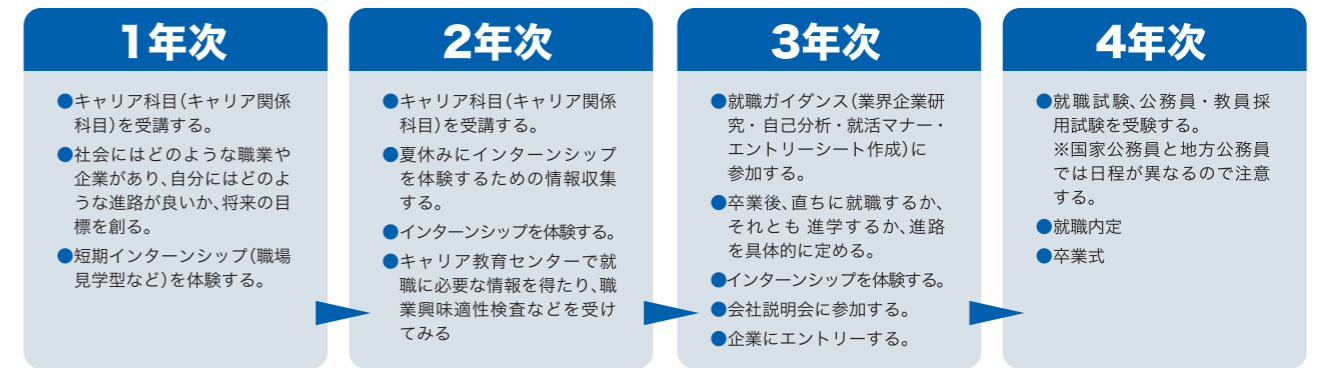
各学部等が行う主な国際交流プログラム

全学部・研究科 対象	交換留学	理学部 対象	済州大学校(韓国) 自然科学大学(学部)との学生交流プログラム	工学部 対象	エヌ・テック・システムズ 東南アジア派遣助成事業
全学部 対象	海外職場体験	医学部 対象	ラオスでの 医学生人材育成支援事業	農学研究科 対象	「国際農学プログラムによる」 海外研修
全学部 対象	海外文化研修				
人文社会学部 対象 (国際法政学科)	東アジア諸国、米国(ハワイ・グアム)等での 海外研修				

琉球大学ならではの学びを社会で活かせるよう充実した就職サポートを提供しています

就職サポート

キャリア支援や就職活動の流れ



キャリア教育センターによる支援

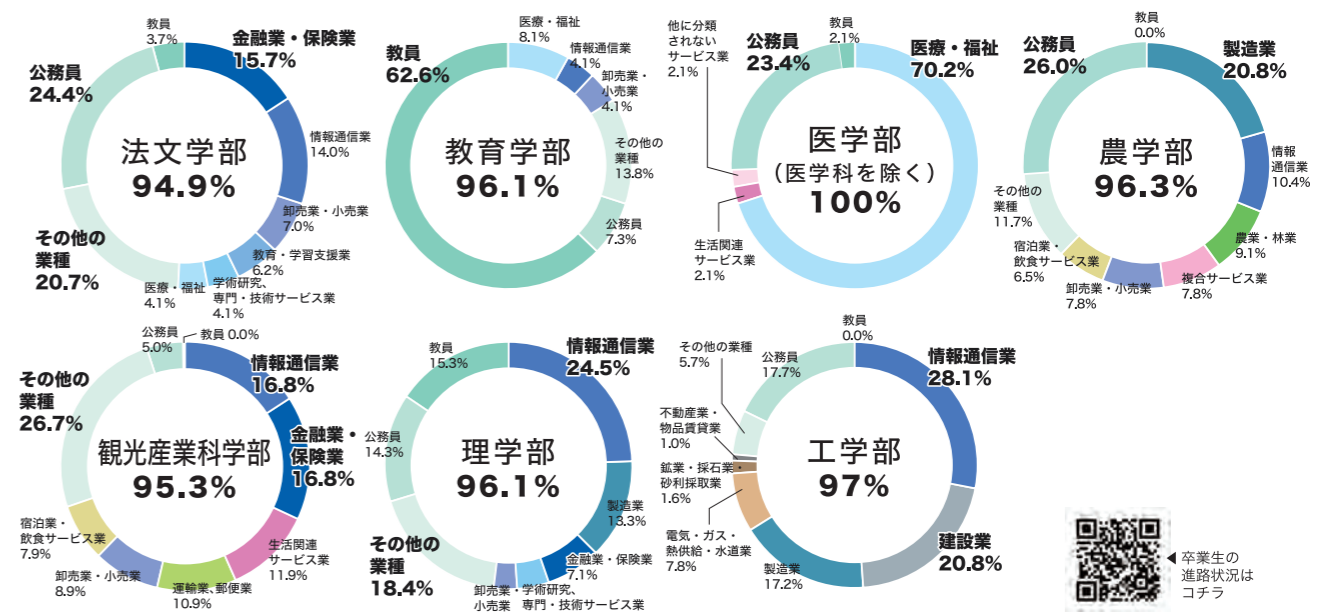
学科・学年ごとに指導教員を配置し、学生の日常生活や進路に関するアドバイスをしています。また、「キャリア教育センター」では次のような支援を行っています。

- ・求人票・企業資料等の提供
- ・全学生対象・就職ガイダンスの開催
- ・公務員試験対策講座
- ・就職活動の指導と助言
- ・学内合同企業説明会の開催
- ・県外就職活動経費の支援
- ・教員採用試験対策講座の開催
- ・就職関連の書籍やDVDの貸出し
- ・就職関連情報の配信



2018(平成30)年度 学内合同企業説明会の様子

2018(平成30)年3月卒業生の就職率(就職者/就職希望者)

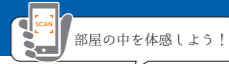


卒業生の進路状況はコチラ

国内外の各地から学生や留学生が集まる琉球大学には異文化交流や人間的成長を促す学生寮(千原寮)があります

学生寮(千原寮)

混住型棟



- 鉄筋コンクリート5階建(男子寮・女子寮)
- 定員/男子: 80名 女子/ 50名
- 居室(12㎡)はすべて個室(トイレ付き)で男子寮は16人、女子寮は10人を1グループとするユニット制です。
- 各階のユニットには補食室、シャワー室、脱衣室、洗濯室等があり、必要な設備と備品が備え付けられています。各居室ではインターネットも利用できます※。

寄宿料	月額4,700円
維持費	月額8,400円 寮生が共用部分で使用する水道・ガス等の経費
電気料	寮生個人が居室で使用した分を実費徴収

寄宿料、維持費、電気料を合わせて月額15,000円から20,000円程度です。

新混住型棟



- 鉄筋コンクリート5階建(男子寮・女子寮)
- 定員/男子: 59名 女子/ 39名
- 居室(15㎡)にはキッチン、シャワー、トイレがあり、必要な設備と備品が備え付けられています。
- 男子寮は11人から12人、女子寮は7人から8人を1グループとするユニット制です。各階のユニットには洗濯機・乾燥機が備え付けられています。各居室ではインターネットも利用できます※。

寄宿料	月額15,000円
維持費	月額4,000円 寮生が共用部分で使用する水道等の経費
電気料等	寮生個人が居室で使用した分を実費徴収

寄宿料、維持費、電気料等を合わせて月額22,000円から25,000円程度です。

一般棟および共用棟



- 鉄筋コンクリート5階建(男子寮3棟/南星棟・海邦棟・北辰棟・女子寮1棟/紫陽花棟)
- 定員/男子: 470名 女子/ 180名
- 居室(9㎡)はすべて個室で10人から12人を1グループとするユニット制です。各階のユニットには補食室、洗面洗濯室、トイレ等があり、各居室には必要な備品が備え付けられています。各居室ではインターネットも利用できます※。
- 共用棟には事務室、談話室(ホール)、一般棟居住者用のシャワー室(男子用・女子用)があります。その他、談話室(ホール)には、トイレがあります。

寄宿料	月額4,300円
維持費	月額4,400円 寮生が共用部分で使用する水道・ガス等の経費
電気料	寮生個人が居室で使用した分を実費徴収

寄宿料、維持費、電気料を合わせて月額10,000円から15,000円程度です。

※インターネット利用には居住者本人と業者の個人契約が必要です。

専用駐車場 学生寮の構内にある千原寮駐車場が利用できます(月額1,000円)。但し、千原寮に居住する学生の車両は、千原寮以外の大学内駐車場の利用および通学には使用できません。

《千原寮入寮案内の請求先》[学寮事務局] 〒903-0129 沖縄県中頭郡西原町字千原59番地 TEL 098-895-8133・8101

誰もが経済的な事情に左右されずに学べるよう、さまざまな奨学金制度を設けています

経済サポート

琉球大学修学支援基金学資金支援事業

地域の方々や本学の教職員からの寄附によって学生を支援する「琉球大学修学支援基金」を設置しています。その活動の一つとして、経済的な理由により修学が困難な学生へ、返済の必要のない奨学金を給付しています(要申請)。

支援対象者 下記のいずれかに該当し、所属学部及び研究科から推薦された学生。 ① 在学中に学資負担者が解雇または死亡等により、経済的に著しく困窮している学生。 ② 本学の授業料免除に申請し、半額免除又は不許可になった学生。	支援概要 1人あたり年間授業料1/4相当額を学資金として給付(返済不要)。 ※2017年度の支援実績/26名(総額約350万円)

日本学生支援機構 奨学金

- ① 日本学生支援機構から貸与を受ける奨学金には、第一種(無利子)と第二種(有利子)があります(下記参照)。
※日本学生支援機構より貸与された奨学金は卒業後、返還する必要があります。
- ② 日本学生支援機構から給付を受ける奨学金には、自宅通学(2万円)と自宅外通学(3万円)があります(授業料免除を受けた場合は減額支給。申請は高校等で受付)。

第一種奨学金(無利子) 最高月額を貸与できる条件は、家計支持者の収入に応じて決まります。	自宅 (最高月額) 45,000円 (最高月額以外) 30,000円、20,000円
	自宅外 (最高月額) 51,000円 (最高月額以外) 40,000円、30,000円、20,000円
第二種奨学金(有利子) 第一種奨学金の貸与を受けてなお修学維持が困難な場合、併せて「第二種奨学金」も申請できます。但し併用は、収入基準が第一種のみの場合よりも厳しくなります。	20,000円~120,000円(10,000円単位)から選択
入学時特別増額(有利子)貸与額 入学時に限り、第一種または第二種奨学金の第1回振込時に増額して貸与を受けることができる制度です(入学時特別増額のみは貸与はできません)。	100,000円、200,000円、300,000円、400,000円、500,000円

入学料免除制度

本学に入学する者で、下記のいずれかに該当すると認められた場合、入学料の全額または半額が免除されます(要申請)。
※一定期間、入学料の徴収を猶予する制度もあります。

- ① 経済的理由により入学料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる者。家計の総収入金額が200万円未満などの条件があります。
- ② 入学前1年以内に学資負担者が死亡し、入学料の納付が著しく困難である者。
- ③ 入学前1年以内に風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難である者。

授業料免除制度

授業料の納付が困難で、学業優秀と認められた場合、授業料の全額または半額が免除されます(要申請)。

- <2018年度の授業料免除状況(全額・半額の合計)> ●前期/1,424名 ●後期/1,416名 ※免除者数には大学院・専攻科の学生を含みます。
- <適用条件(新入生の場合)>
- ① 経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる者。家計の給与収入金額が550万円未満などの条件もあります。
 - ② 入学前1年以内に学資負担者が死亡し、授業料の納付が著しく困難である者。
 - ③ 入学前1年以内に風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難である者。
- <入学料免除・授業料免除についての問合せ先> 学生支援課 学生援護係 TEL.098-895-8135

2019年度入学料・授業料

昼間主コース	入学料	282,000円	夜間主コース	入学料	141,000円
	授業料	535,800円(年間) 267,900円(半期)		授業料	267,900円(年間) 133,950円(半期)

※但し在中に授業料の改定が行われた場合、改定時から新授業料が適用されます。

取得可能な資格

学部	学科・課程・専攻・コース・専修		中学校教諭一種 (区分)	高等学校教諭一種 (区分)	その他 (区分)	
学部 人文社会	国際法政学科		なし	なし		
	人間社会学科			公民 (B)		
	琉球アジア文化学科		国語 (B)	国語 (B)	注)歴史・民俗学プログラムは免許取得不可	
学部 国際地域創造	国際地域創造学科	観光地域デザインプログラム	なし	なし		
		経営プログラム				
		経済学プログラム(昼間主コース)	社会 (B)			
		国際言語文化プログラム(昼間主コース/夜間主コース)	英語 (B)	英語 (B)		
		地域文化科学プログラム	社会 (B)	地理歴史 (B)		
学部 教育学部	小学校教育コース	学校教育専攻	教育実践学専修	* (B)	* (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			子ども教育開発専修	* (B)	* (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
		教科教育専攻	国語教育専修	国語 (B)	国語 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			社会科教育専修	社会 (B)	地理歴史(B)公民(B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			数学教育専修	数学 (B)	数学 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			理科教育専修	理科 (B)	理科 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			音楽教育専修	音楽 (B)	音楽 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			美術教育専修	美術 (B)	美術(B)工芸(B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			保健体育専修	保健体育 (B)	保健体育 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
			技術教育専修	技術 (B)	工業 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)
	生活科学教育専修	家庭 (B)	家庭 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)		
	英語教育専修	英語 (B)	英語 (B)	小学校一種(A) 幼稚園一種(B)		
	中学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修	国語 (A)	国語 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			社会科教育専修	社会 (A)	地理歴史(B)公民(B)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			数学教育専修	数学 (A)	数学 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			理科教育専修	理科 (A)	理科 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			音楽教育専修	音楽 (A)	音楽 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			美術教育専修	美術 (A)	美術(A)工芸(B)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			保健体育専修	保健体育 (A)	保健体育 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			技術教育専修	技術 (A)	工業 (B)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			生活科学教育専修	家庭 (A)	家庭 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
			英語教育専修	英語 (A)	英語 (A)	小学校一種(B) 幼稚園一種(B)
	特別支援教育コース	特別支援教育専攻	特別支援教育専修	** (A/B)	** (B)	小学校一種(A/B) 幼稚園一種(B) 特別支援一種(A)
学部 理学部	数理科学科		数学 (B)	数学 (B)		
	物質地球科学科		理科 (B)	理科 (B)		
	海洋自然科学科					
学部 医学部	医学科		なし	なし		
	保健学科				養護教諭一種 (B)	
学部 工学部	工学科	機械工学コース	なし	工業 (B)		
		エネルギー環境工学コース		工業 (B)		
		電気システム工学コース		工業 (B)		
		電子情報通信コース		工業 (B)		
		社会基盤デザインコース		工業 (B)		
		建築学コース		工業 (B)		
		知能情報コース		情報 (B)		
学部 農学部	亜熱帯地域農学科		なし	農業 (B)		
	亜熱帯農林環境科学科					
	地域農業工学科					
	亜熱帯生物資源科学科 (健康栄養科学コース)				栄養教諭二種 (B)	

区分 (A) 卒業単位を修得すること(卒業)により得られる資格 (B) 卒業単位の修得+当該教員免許取得に必要な科目の履修により得られる資格

*は他専修教科から選択(例: 国語を選択すれば「国語」が取得できる)

**は特別支援一種: 特別支援学校教諭一種(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)は小学校か中学校のどちらか一方の一種免許が基礎資格となるため、同時に卒業単位で取得できる。

教員免許以外の資格等

学部	学科・課程・専攻・コース・専修		資格・試験名(区分)
人文社会 学部	人間社会学科	社会学プログラム	社会福祉士(社会福祉学コース：12)
		心理学プログラム	認定心理士(3) 公認心理師(14)
	琉球アジア文化学科		博物館学芸員(3) ※国際地域創造学部地域文化科学プログラムの担当者に要相談
国際地域 創造学部	国際地域 創造学科	観光地域デザインプログラム	博物館学芸員(3) ※国際地域創造学部地域文化科学プログラムの担当者に要相談 ※観光地域デザインプログラムについては指導教員に要相談
		経営プログラム	
		経済学プログラム	
		国際言語文化プログラム	
		地域文化科学プログラム	博物館学芸員(3) G I S 学術士(3)
教育学部	学校教育教員養成課程		学校図書館司書教諭(8) 博物館学芸員(美術教育専修：3)
理学部	物質地球科学科	物理系	博物館学芸員(3) 測量士補(1) 測量士(5)
		地学系	博物館学芸員(3)
	海洋自然科学科	化学系	博物館学芸員(3) 毒物劇物取扱責任者(7) 危険物取扱者(甲種)(4)
		生物系	博物館学芸員(3)
医学部	医学科		医師(4)
	保健学科		看護師(4) 保健師(12) 助産師(12) 臨床検査技師(4) 健康食品管理士(12) ※助産師については、将来的に大学院課程への移行を計画しています。
工学部	工学科	機械工学コース	自動車整備士(4) 航空整備士(10) ボイラー技士(9) 機械設計技術者3級(10) 技術士(10) 他
		エネルギー環境工学コース	ボイラー・タービン主任技術者(5) 衛生管理者(6) 冷凍空調技士(10) 他
		電気システム工学コース	電気主任技術者<指定科目の修得が必要>(5) 電気通信主任技術者<指定科目の修得が必要>(2) 第二種電気工事士<指定科目の修得が必要>(2) 2級電気工事施工管理技士(4) 他
		電子情報通信コース	電気主任技術者<指定科目の修得が必要>(5) 電気通信主任技術者<指定科目の修得が必要>(2) 第二種電気工事士<指定科目の修得が必要>(2) 2級電気工事施工管理技士(4) 他
		社会基盤デザインコース	技術士補(1) 技術士(6) 測量士補(1) 測量士(5) 1・2級土木施工管理技士(6) コンクリート診断士(6) 土木鋼構造診断士(6) 他
		建築学コース	一級建築士(6) 二級建築士(4) 木造建築士(4) 1・2級建築施工管理技士(6) 1・2級土木施工管理技士(6) 建築設備士(6) 土地区画整理士(6) 他
		知能情報コース	基本情報技術者試験(10) 応用情報技術者試験(10) ネットワークスペシャリスト試験(10) 他
農学部	亜熱帯地域農学科		飼料製造管理者任用資格(7) 家畜人工授精師(受講科目の一部免除)(10) 樹木医補(3) 家畜受精卵移植師(受講科目の一部免除)(10) 飼料製造管理者任用資格(7)
	亜熱帯農林環境科学科		樹木医補(3) 森林情報士二級(3) 飼料製造管理者任用資格(7) 家畜人工授精師(受講科目の一部免除)(10) 食鳥処理衛生管理者任用資格(7) 家畜受精卵移植師(受講科目の一部免除)(10)
	地域農業工学科		測量士補(地域環境工学コース：1、バイオシステム工学コース：3) 技術士(技術士の第一次試験免除(日本技術者教育認定基準「JABEE」)認定プログラム修了者)(6)
	亜熱帯生物資源科学科		食品衛生管理者(10) 食品衛生監視員(10) 環境衛生監視員(10) 健康食品管理士(12) 毒物劇物取扱責任者(7) 危険物取扱者(甲種)(4) 上級バイオ技術者(4)
	亜熱帯生物資源科学科 健康栄養科学コース		栄養士(11) 管理栄養士(13) 健康食品管理士(12)

- 区分
- (1) 卒業単位を修得すること(卒業)により得られる資格
 - (2) 卒業単位を修得することにより試験の一部が免除される試験
 - (3) 卒業単位の修得+必要な科目の履修により得られる資格
 - (4) 卒業単位を修得することにより受験資格のある試験
 - (5) 卒業単位を修得後、実務経験を必要とする資格
 - (6) 卒業単位を修得後、実務経験を必要とする試験
 - (7) 卒業単位を修得後、指定の職就任を要件とする資格
 - (8) 前提となる資格を取得して得られる資格
 - (9) 前提となる資格を取得後、実務経験を必要とする資格

- (10) 国が認定する1~9以外の資格又は試験
- (11) 卒業単位の修得+必要な科目の履修により得られる免許
- (12) 卒業単位の修得+必要な科目の履修により得られる受験資格
- (13) 前提となる免許を取得後、実務経験をを経て、得られる受験資格
- (14) 学部における所定単位の修得 / 卒業及び大学院における所定単位の修得 / 修了により得られる受験資格、
あるいは学部における所定単位の修得 / 卒業後、実務経験をを経て得られる受験資格

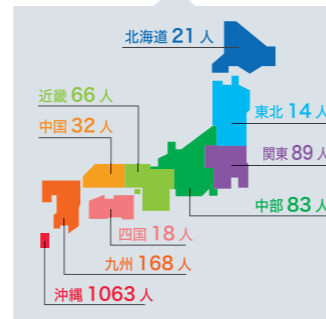
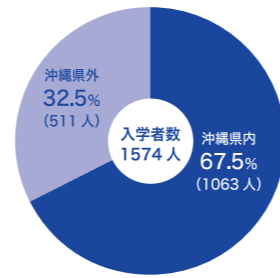
2019(平成31)年度入試統計

平成31年度 琉球大学 入学試験実施状況 総括表

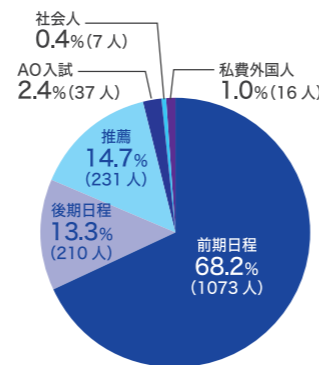
学部	学科(課程)・専修(コース)	募集人員	志願者		第一段階選抜		受験者		合格者		入学者	
			人員	倍率	人員	倍率	人員	倍率	人員	倍率		
学 人 文 社 会 学 部	国際法政学科	80	299	3.7			203	2.5	95	2.1	82	
	人間社会学科	80	308	3.9			203	2.5	88	2.3	80	
	琉球アジア文化学科	40	191	4.8			121	3.0	43	2.8	40	
	小 計	200	798	4.0			527	2.6	226	2.3	202	
創 造 地 域 学 部	国際地域創造学科	265	791	3.0			613	2.3	278	2.2	266	
	夜間主コース	80	532	6.7			397	5.0	83	4.8	80	
	小 計	345	1323	3.8			1010	2.9	361	2.8	346	
教 育 学 部	学校教育専攻	50	182	3.6			112	2.2	51	2.2	51	
	小学校教育コース	国語教育専修										
		社会科教育専修										
		数学教育専修										
		理科教育専修										
		音楽教育専修										
		美術教育専修										
		保健体育専修										
		技術教育専修										
	中学校教育コース	生活科学教育専修	45	164	3.6			88	2.0	46	1.9	45
		英語教育専修										
		国語教育専修	4	13	3.3			13	3.3	4	3.3	4
		社会科教育専修	3	11	3.7			10	3.3	3	3.3	3
		数学教育専修	5	13	2.6			12	2.4	5	2.4	5
		理科教育専修	5	14	2.8			14	2.8	6	2.3	6
		音楽教育専修	3	6	2.0			5	1.7	3	1.7	3
		美術教育専修	3	3	1.0			2	0.7	2	1.0	2
	特別支援教育専攻	保健体育専修	3	6	2.0			6	2.0	4	1.5	4
		技術教育専修	3	5	1.7			5	1.7	4	1.3	4
		生活科学教育専修	3	10	3.3			9	3.0	3	3.0	3
英語教育専修		3	4	1.3			2	0.7	2	1.0	2	
特別支援教育専攻	10	24	2.4			21	2.1	10	2.1	10		
小 計	140	455	3.3			299	2.1	143	2.1	142		
理 学 部	数理科学科	40	189	4.7			132	3.3	46	2.9	41	
	物質地球科学科	物理系	40	128	3.2			94	2.4	51	1.8	42
		地学系	25	85	3.4			59	2.4	30	2.0	27
	海洋自然科学科	化学系	47	214	4.6			163	3.5	55	3.0	48
		生物系	48	239	5.0			174	3.6	55	3.2	52
小 計	200	855	4.3			622	3.1	237	2.6	210		
医 学 部	医学科	112	882	7.9	650	6.8	464	4.1	115	4.0	112	
	保健学科	60	210	3.5			141	2.4	70	2.0	60	
小 計	172	1092	6.3	650	6.8	605	3.5	185	3.3	172		
工 学 部	工学科	機械工学コース										
		エネルギー環境工学コース										
		電気システム工学コース										
		電子情報通信コース										
		社会基盤デザインコース										
		建築学コース										
	知能情報コース	350	1367	3.9			1025	2.9	407	2.5	360	
小 計	350	1367	3.9			1025	2.9	407	2.5	360		
農 学 部	亜熱帯地域農学科	35	124	3.5			82	2.3	46	1.8	35	
	亜熱帯農林環境科学科	35	138	3.9			99	2.8	43	2.3	37	
	地域農業工学科	25	163	6.5			121	4.8	30	4.0	25	
	亜熱帯生物資源科学科	35	210	6.0			161	4.6	44	3.7	35	
	健康栄養科学コース	10	37	3.7			37	3.7	12	3.1	10	
小 計	140	672	4.8			500	3.6	175	2.9	142		
合 計	1547	6562	4.2			4588	3.0	1734	2.6	1574		

●志願倍率：志願者数/募集人員 ●受験倍率：受験者数/募集人員 ●合格倍率：受験者数/合格者数
 ※第一段階選抜については、医学部医学科一般入試(前期/後期)のものです。(倍率については、第一段階選抜合格者数/募集人員)

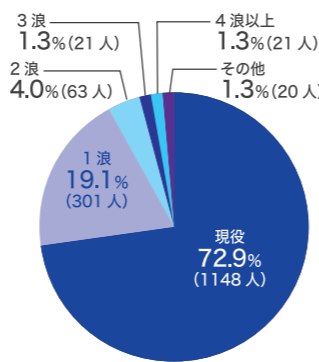
出身地別入学状況



入試形態別入学者内訳



入学者現役浪人比率



詳しくは琉球大学のホームページ「入試情報」をご確認ください。



入試関連情報

入試関連資料の請求方法

※学生募集要項は冊子としての発行はありません。本学入試課HPで発表します。

○テレメールでの請求方法

■郵便配達を利用する場合

② 電話

① インターネット

(パソコン・スマホ・携帯電話)

<http://telemail.jp>

※パソコン・スマホ・携帯電話とも共通アドレスです。

対応するスマホ・携帯電話で読み取れます。



IP 電話 050-8601-0101

[資料名] 大学案内 (入学者選抜要項を同封)

[資料請求番号] 568250

※IP 電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に12円です。※希望する資料請求番号(6桁)を入力またはプッシュしてください。

《資料請求についてのお問い合わせ先》

テレメールカスタマーセンター
050-8601-0102
 《受付時間》9:30 ~ 18:00

※①②についての送料は、資料到着後、同封されている支払方法に従い、支払ってください。支払い方法は「郵便局・ゆうちょ銀行での払込み」「コンビニ支払い」「クレジットカード払い」「ケータイ払い(携帯電話通話料金と一緒にのお支払い)」となります。支払いに際して手数料が別途必要になります。

○モバっちょでの請求方法

■郵便配達を利用する場合

インターネット(パソコン・スマホ・携帯電話)

<http://djcm-b.jp/u-ryukyuu2/>

※パソコン・スマホ・携帯電話とも共通アドレスです。

対応するスマホ・携帯電話で読み取れます。



《資料請求についてのお問い合わせ先》

モバっちょカスタマーセンター
050-3540-5005
 受付時間 10:00~18:00

※携帯電話の場合は通話料金と一緒にのお支払い、パソコンの場合はクレジットカード決済のみとなります。

問い合わせ先

●入試課 **098-895-8141**
098-895-8142

人文社会学部	098-895-9056
国際地域創造学部	098-895-8184
教育学部	098-895-8317
理学部	098-895-8595
医学部	098-895-1032
工学部	098-895-8583
農学部	098-895-8738

琉球大学はインターネット出願です。

琉球大学では平成31年度入試(平成30年度実施)からインターネット出願に変わりました。

- 一般入試(前期日程・後期日程)
- 推薦入試Ⅰ・Ⅱ
- AO入試
- 帰国子女特別入試
- 社会人特別入試
- 私費外国人留学生入試

A C C E S S



首里駅琉大快速線

94 番線 ▶▶▶ **琉大南口／北口方面** **那覇バス** モノレール首里駅から琉大北口まで (平日のみ運行)

経路／首里駅前 ⇒ 汀良三丁目 ⇒ 城東小学校前 ⇒ 石嶺二丁目 ⇒ 棚原 ⇒ キリスト教短大入口 ⇒ 琉大附属病院前 ⇒ 琉大附属小学校 ⇒ 琉大法学部前(琉大北口行きのみ) ⇒ 琉大北口(終点)

空港から琉球大学

高速バス ※1 時間に 1 本程度／所要時間：45 分

111 番線 **琉球バス** **沖縄バス** **那覇バス** **東陽バス** の4社が交互運行

113 117 123 152 番線 **琉球バス**

経路／空港 ⇒ バスターミナル ⇒ 沖縄自動車道 ⇒ 琉大入口下車 (琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)

那覇バスターミナルから琉球大学

路線バス ※各 20 ～ 40 分に 1 本程度／所要時間：40 ～ 50 分

97 番線 ▶▶▶ **琉大東口／北口方面** **那覇バス**

経路／バスターミナル ⇒ 国際通り(牧志) ⇒ 儀保(首里) ⇒ 琉大附属病院 ⇒ 琉大東口 ⇒ 琉大北口(終点)

98 番線 ▶▶▶ **琉大北口方面** **琉球バス**

経路／バスターミナル ⇒ 国際通り(牧志) ⇒ バイパス ⇒ 真栄原 ⇒ 沖国大前 ⇒ 琉大北口(終点)



琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

学生部入試課

TEL 098-895-8141/8142

E-mail nsnsdl@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学 検索 <http://www.u-ryukyu.ac.jp>